

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	福井大学
設置者名	国立大学法人福井大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
教育学部	学校教育課程	夜・通信	196	-	602	798	13	
工学部	機械・システム工学科	夜・通信		96	347	13		
	電気電子情報工学科	夜・通信		65	316	13		
	建築・都市環境工学科	夜・通信		73	324	13		
	物質・生命化学科	夜・通信		59	310	13		
	応用物理学科	夜・通信		16	267	13		
国際地域学部	国際地域学科	夜・通信	-	142	338	13		
医学部	医学科	夜・通信	10	-	124	134	19	
	看護学科	夜・通信	8	-	129	137	13	

(備考) 医学部医学科の専門科目のみ、授業時間数で定めており、科目ごとに授業時間数を単位数に換算した。

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

「実務経験のある教員等による授業科目の一覧表」 https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/jitsumu-kyouin-list.pdf
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	福井大学
設置者名	国立大学法人福井大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

「役員一覧」 https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/exec/view/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	民間企業・代表取締役会長	2019年4月1日～ 2020年3月31日	法人の運営全般に関すること。特に、県内企業人の視点からの指摘・提言等
非常勤	私立高等学校・非常勤講師 (前公立高等学校長)	2019年4月1日～ 2020年3月31日	法人の運営全般に関すること。特に、教育者の視点からの指摘・提言等
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	福井大学
設置者名	国立大学法人福井大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画(シラバス)の作成過程 <p>全学共通のカリキュラム・ポリシーを踏まえた学部毎のカリキュラム・ポリシー及びそれに基づく教育課程表を踏まえ、全学教務学生委員会及び各学部関係委員会等で定める授業計画(シラバス)作成要領等に基づき、授業計画(シラバス)を作成・公表している。</p> <p>○シラバスの記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業基本情報(授業科目名、単位数(時間数)、開講時期、担当教員情報(今後、実務経験の有無を追記する予定)等) ・ナンバリングコード ・授業概要(※医学部は「学習目標」) ・到達目標 ・授業内容 ・準備学習(予習・復習) ・授業形式 ・成績評価の方法・基準(※医学部は「評価方法」、「総合評価割合」) ・教科書・参考書等 ・その他注意事項 ・キーワード(※医学部は「授業内容」を含む) ・アクティブラーニングの有無(※医学部は「主体的・対話的教育手法の導入状況」) <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画(シラバス)の作成・公表の時期 <ol style="list-style-type: none"> ① 担当部署より授業担当教員に対し、次年度開講予定の授業科目のシラバス作成を依頼する(12月中旬～1月中旬)。 ② 授業担当教員は、授業計画(シラバス)作成要領等に基づき、Web版シラバスシステム(画面入力)により、シラバスを作成する(2～3月)。医学部はWORD又はPDF形式によりシラバスを作成し、Web版シラバスシステムに登録する(3月)。 ③ Web版シラバスシステムに作成されたシラバスを点検の上、公表する。本学ホームページでも公表する(3月末)。 ④ 学生等は、公表されたシラバスをWeb版シラバスシステムから検索・閲覧が可能であり、公表されたシラバスを参照して履修計画を立案することができる。 <p>※該当する科目について、次年度以降のシラバスに「実務経験のある教員等による授業科目」であることを記載することにしており、実務経験の種別を記載する担</p>

<p>当教員情報を含め当該項目を追記するようシラバス作成要領等およびそれに沿った Web 版シラバスシステムを本年度中に変更することとしている。なお、2019年度においては「実務経験のある教員等による授業科目一覧」をホームページなどによって学生に周知する。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>「授業計画（シラバス）」 https://syllabus1.sao.u-fukui.ac.jp/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>(1) 本学では、学修成果を厳格かつ適正に評価するよう、全学共通の「福井大学における多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン」を作成している。担当教員は、当ガイドラインに沿って、学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、シラバスに記載した「成績評価の方法・基準」に基づき学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与えている。</p> <p>(2) 当ガイドラインでは、①シラバスへ「到達目標」及び「評価方法とその割合」を明示すること、②「多面的評価」を実施すること、③「同一科目内における公平性」を担保すること、④「成績の評価、評点、評価内容の基準」、⑤学生からの質問に対する「説明責任」を果たすこと等を明記している。</p> <p>(3) 評価に際しては、各授業科目の特性に応じて、学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの様々な適切な方法が活用されている。</p> <p>(4) 学生からの評価結果等に関する問い合わせに対しては、成績評価に用いた答案用紙やレポート、評価表等の証拠書類を提示するなどして丁寧に説明するとともに、学生は十分な納得が得られない場合は異議申し立てを行うことができ、その際は教務関連委員会で適切かつ速やかに対処している。なお、教員には成績評価に関する書類等は一定の期間保管することを義務付けている。</p> <p>(参考) 「福井大学における多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン」</p> <p>1. 本ガイドラインの趣旨 本学では、教育の国際通用性を確保する取組みの一環として、多面的かつ厳格な成績評価の推進を図っています。そのためには、適切な評価観点・評価方法の採用ならびに透明性のある評価活動を促す全学的な指針が必要です。本ガイドラインは福井大学における成績評価の基準と留意事項を取りまとめたもので、各科目の教育水準を維持し、本学の教育に対する信頼性を確保することを目的としています。</p> <p>2. 到達目標の明示 透明性のある成績評価を実施するには、まず科目の到達目標が明示されていなくてはなりません。学生への周知方法として、必ずシラバスに到達目標を記入します。到達目標を設定する際は、以下のことを考慮して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムにおける科目の位置づけや役割を反映した目標を掲げる ・想定する学生が常識的な努力をすれば学期末までに到達できるような、現実的な目標にする ・要求する事柄や水準、能力を発揮する際の条件などを具体的に示すことで、何がどのように評価されるのかを暗示し、学習の指針となるような目標にする ・学生を隠れた主語とし、学習成果が観察可能となる動詞を用いて「～できる」と表現する 	

3. 多面的評価

成績評価を行う際、シラバスに掲げた全ての到達目標について達成度を測定する必要があります。成績評価の正当性を裏づけるためにも、適切な時期・回数・観点・評価方法を工夫し、多面的に評価することが推奨されます。

4. 評価方法とその割合の明示

成績評価の方法と全体の成績評価に占める割合をパーセンテージとしてシラバスに明記します。科目の到達目標や特性に合わせ、適切な重みづけとなるように割合を配分して下さい。

なお、出席点として出席自体を成績評価の対象とすることはできません。授業中に行った学習活動の成果や課題への取り組み状況を成績評価の対象に含めます。

5. 同一科目内における公平性

同じ科目が複数のクラスに分けて開講される場合、成績評価の基準や方法に大きな差が生じないように、担当教員間で協議し調整を図って下さい。

6. 成績の評価、評点、評価内容の基準

「福井大学における成績評価基準等に関する規程第3条」において、成績の評価、評点、評価内容の基準は次のように定められています。

(1) 5段階評価の場合

評価 (評語)	G P	評価基準	評価点
秀	4	目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をあげている。	100点～90点
優	3	目標を十分に達成している。	89点～80点
良	2	目標を概ね達成している。	79点～70点
可	1	目標を最低限達成している。	69点～60点
不可	0	目標を達成していない。	59点～0点

(2) 13段階評価の場合

評価 (評語)	G P	評価基準	評価点
A+	4.00	目標を完全に達成し、傑出した水準に達している。	100点～98点
A	4.00	目標をほぼ完全に達成し、きわめて優秀な成果をあげている。	97点～95点
A-	3.67	目標をほぼ完全に達成し、優秀な成果をあげている。	94点～90点
B+	3.33	目標を十分に達成しており、優秀な部分も多くみられる。	89点～87点
B	3.00	目標を十分に達成している。	86点～83点
B-	2.67	目標を十分に達成しているが、一部について改善の余地がある。	82点～80点
C+	2.33	目標を概ね達成し、優秀な部分もみられる。	79点～77点
C	2.00	目標を概ね達成している。	76点～73点
C-	1.67	目標を概ね達成しているが、一部さらなる学修を必要とする部分も残る。	72点～70点
D+	1.33	最低限の目標は達成しており、中には優秀な部分もみられる。	69点～67点

D	1.00	最低限の目標は達成している。	66点～63点
D-	0.67	最低限の目標は達成しているが、一部さらなる学修を必要とする部分も残る。	62点～60点
F	0	目標を達成していない。	59点～0点

7. 説明責任

成績評価に関する学生からの質問に対し、授業担当教員には明瞭に回答する責任があります。その際、採点の対象・方法・基準・公平性に関する説明に加え、何より証拠の提示が重要となります。明瞭に説明できることは厳格な成績評価の重要な要件です。説明責任を果たすため、以下のことに留意して下さい。

- ・成績評価は、原則としてシラバスに掲載した基準に則って行う。やむを得ず変更する場合は、新たな基準と変更の理由を速やかに学生へ周知する
- ・成績評価に用いた答案用紙やレポート、評価表などの証拠は、学生からの問い合わせに応じて提示できるようにする
- ・成績評価に関わる文書（答案用紙、レポート、小テスト、採点表など）は法人文書に類する扱いをし、保存に際しては「国立大学法人福井大学法人文書管理規程」を参考にし、学生に返却する場合もコピーをとったり、データ化したりするなどの対応をとる
- ・学生からの疑問や質問に対し、まずは聴く姿勢を示す
- ・十分な納得が得られない場合、所掌する委員会や相談室を通して解決を図る

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

○客観的な指標の設定

- (1) 学生の学修成果に係る評価基準等について、全学共通の「福井大学における成績評価基準等に関する規程」を定めている。
- (2) 評価基準等は学生便覧、ガイダンス、ホームページ等により学生に広く周知している。
- (3) 当該規程では、①成績評価基準（評価（評語）、GP、評価基準、評価点（100点満点））、②GPAに係る対象授業科目、③GPAの算定方法等を明記している。
- (4) 本学では、客観的指標としてGPAを採用している。GPAの算定方法は以下の「福井大学における成績評価基準等に関する規程」のとおりである。

○適切な実施

- (1) 学生には、毎学期、本人のGPAを周知するとともに、助言教員等は当GPAを活用し履修指導を行っている。
- (2) 各学部では、GPAによる成績の分布状況を教務関連委員会で把握している。
- (3) 工学部では、各学科におけるコース配属の際、GPAを活用している。
- (4) 国際地域学部では、次のような取組を行っている。
 - ・他学部（5段階評価）と異なり、よりきめ細やかな米国型13段階評価を実施している。
 - ・学生全員にGPAが2.0以上になるよう指導している。
 - ・GPA3.5以上等の優秀学生には、卒業時に優等学位の証明書を交付している。
 - ・履修登録単位数の制限（キャップ制）について、GPAが一定以上の者には制限を緩和している。
 - ・留学条件として一定以上のGPAを課している。
- (5) 交換留学派遣先の選考及び海外派遣プログラム奨学金給付者の選考において、

G P Aを活用している。

(参考)

「福井大学における成績評価基準等に関する規程」(抜粋)

(定義)

第2条 この規程において用いる用語の定義は、次のとおりとする。

2 グレード・ポイント(以下「GP」という。)とは、成績評価基準において、各評価に対しあらかじめ付与された等級を表す数値をいう。

3 グレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という。)とは、各科目にあらかじめ設定されている単位数に当該科目の成績に応じてGPを乗じ、これらの合計を履修単位数の合計で除して得られる数値をいう。

4 学期GPAとは、学期毎に算出されるGPAをいう。

5 累積GPAとは、在学中の全学期を通じて算出されるGPAをいう。

(成績評価基準)

第3条 成績評価基準は、次の各号に定めるとおりとし、評価(評語)が秀、優、良、可、A+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、C-、D+、D及びD-を合格、不可及びFを不合格とする。

(1) 5段階評価の場合

評価 (評語)	G P	評価基準	評価点
秀	4	目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をあげている。	100点～90点
優	3	目標を十分に達成している。	89点～80点
良	2	目標を概ね達成している。	79点～70点
可	1	目標を最低限達成している。	69点～60点
不可	0	目標を達成していない。	59点～0点

(2) 13段階評価の場合

評価 (評語)	G P	評価基準	評価点
A+	4.00	目標を完全に達成し、傑出した水準に達している。	100点～98点
A	4.00	目標をほぼ完全に達成し、きわめて優秀な成果をあげている。	97点～95点
A-	3.67	目標をほぼ完全に達成し、優秀な成果をあげている。	94点～90点
B+	3.33	目標を十分に達成しており、優秀な部分も多くみら	89点～87点

		れる。	
B	3.00	目標を十分に達成している。	86点～83点
B-	2.67	目標を十分に達成しているが、一部について改善の余地がある。	82点～80点
C+	2.33	目標を概ね達成し、優秀な部分もみられる。	79点～77点
C	2.00	目標を概ね達成している。	76点～73点
C-	1.67	目標を概ね達成しているが、一部さらなる学修を必要とする部分も残る。	72点～70点
D+	1.33	最低限の目標は達成しており、中には優秀な部分もみられる。	69点～67点
D	1.00	最低限の目標は達成している。	66点～63点
D-	0.67	最低限の目標は達成しているが、一部さらなる学修を必要とする部分も残る。	62点～60点
F	0	目標を達成していない。	59点～0点

2 前項第1号の評語は、英文証明書等にあつては、秀、優、良、可、不可を、A、B、C、D、Fと読み替えるものとする。

(GPA制度)

第4条 GPA制度は、学生の学修意欲を高めるとともに、客観的な成績評価と履修指導及び学生支援に活用する。

(対象授業科目)

第5条 GPA算出の対象授業科目は、本学在学中に履修した全ての授業科目とする。

2 前項の規定にかかわらず、次の授業科目については、対象から除くものとする。

- (1) 成績を合格か不合格かだけで判定する科目
- (2) 本学に再入学した際の単位認定科目
- (3) 他大学等との単位互換で修得した科目
- (4) 交換留学等で修得した科目
- (5) 学生からの申請に基づき、履修登録を取り消した科目
- (6) 学部等が別に定める科目

(GPAの計算方法)

第6条 GPAは、次の各号に区分し、当該各号に定める方法により算出する。その値に小数点以下第二未満の端数があるときは、これを四捨五入する。

(1) 学期GPA

学期GPAは、当該学期に履修した授業科目ごとの単位数に当該学期の成績評価に応じたGPを乗じ、その合計を当該学期に履修した授業科目の単位数合計で除して算出する。

(2) 累積 GPA

累積 GPA は、学期 GPA 計算方法の「当該学期」を「在学中」に読み替え、同様の計算方法により算出する。

(GPA の計算期日)

第 7 条 GPA の計算は、学期ごとに指定された期日（以下「GPA 計算期日」という。）までに確定した成績に基づいて行う。

2 GPA 計算期日までに成績が確定していない科目については、計算上は履修していないものとして取扱う。

3 GPA 計算期日は、教務学生委員会において定める。

(履修の取り消し)

第 8 条 一度履修登録した科目であっても、履修を取り消すことができる。

2 履修の取り消しは、学部等が別に定めるところの履修取り消し期間（以下「履修取り消し期間」という。）により取り扱う。ただし、履修取り消し期間内に手続きを行わない場合は、当初申請した履修科目が GPA 算出の対象となる。

(不正行為により無効とされた成績の取扱い等)

第 9 条 不正行為により無効とされた成績は、不合格として扱う。

2 当該学期の GPA 計算期日以降に当該学期の成績が不正行為により無効とされた場合は、当該学期の GPA 計算期日までに当該成績が無効となったものとみなし、GPA を再計算するものとする。

(再履修等における GPA の取扱い)

第 10 条 一度不合格と評価された授業科目について、後に再履修等によって合格となった場合にあっても、GPA 算出の対象から一切除外しない。

(GPA の通知及び記載)

第 11 条 学期 GPA 及び累積 GPA は、学期毎に学生へ通知し、成績原簿には記載しない。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

「福井大学における成績評価基準等に関する規程」
https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2_gradin_g_standard.pdf

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

- (1) 全学共通の卒業の認定方針（ディプロマ・ポリシー）及びそれを踏まえた学部毎のディプロマ・ポリシーを策定し、学生便覧等により学生に周知するとともに、本学ホームページで公表している。なお、具体的な内容は以下に記載する。
- (2) 当該ディプロマ・ポリシー並びに本学共通教育履修規程及び各学部規程に規定する卒業に必要な修得単位数等を踏まえ、学生の授業科目及び卒業研究等の履修・単位修得状況等を示した一覧表に基づき、教務関連委員会で厳正に審査・確認した上で、卒業認定基準を全て満たした学生を教授会における審議を経て合格と判定し、学長が卒業を認定している。

「参考：ディプロマ・ポリシー」

(全学共通)

福井大学は、所定の年限在籍し、各学部の体系的な教育課程により学業を修め、地域、国及び国際社会に貢献し得る高度専門職業人として備えるべき以下の能力を修得した者に対し、学士の学位を授与します。

- (1) 確かな専門能力に裏打ちされた実践力
- (2) 実践的な言語運用能力を備えたコミュニケーション力
- (3) 地域から世界までを視野に入れて自ら行動できる人間力

(教育学部)

教育学部では、修業年限以上在学し、かつ教育課程編成の方針に基づいて編成された科目を履修し、共通教育規程および教育学部規程において定められた単位数を取得することにより、教科や教職の専門的・実践的力量ならびに公教育の担い手としての自覚と責任感を備え、以下のような能力を身につけたと認められる者に対して学位を授与する。

1. 生涯にわたって学び続ける基盤
地域や学校における実践コミュニティの一員として、また学びの専門職として、地域に参画し、他者と協働し、生涯にわたって学び続ける基盤を有する。
2. 協働的な学習や探究的な学習の指導と評価
子どもたちが主体的・協働的に学習できるように、また教科・領域の特性に応じた探究的な学習を行うことができるように、教育の目的・目標・内容、および子どもの発達や地域・グローバル社会に関する知識に基づいて指導と評価の計画を立てることができる。
3. 教科・領域における重要な概念と探究の方法に関する理解
子どもたちの知的・社会的・個性的な発達を支援するために、各教科・領域における重要な概念と固有の探究方法、およびそれらを子どもたちが学習していくプロセスに関して深い理解を有する。
4. 民主的な集団活動の指導
学校や教室の社会的・文化的文脈を認識したうえで、子どもたちが平和で民主的な社会のあり方と人間らしい生き方について理解を深められるように、集団活動の運営方法を指導することができる。
5. 子どもたちの個性に応じた成長と発達の支援
人間の成長・発達について深い理解を形成し、子どもたち一人ひとりの個性に応じた成長と発達を支援することができる。
6. 学識形成の足跡を示す学習成果の公開
上記1から5の能力を裏付けるために、学識が形成された足跡を示す学習成果をまとめて、公開することができる。

(医学部)

○医学科

医学部医学科では、理念・教育目的・人材育成目標に基づき、医学科生が卒業時に達成すべき学修成果を「アウトカム」(3項目)として掲げ、それらを達成するために6年間で修得すべき能力を「コンピテンシー」(大領域8項目、小領域36項目)として設定しています。

所定の期間在学し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定した授業科目を履修し、履修規定で定められた卒業に必要な単位・時間数を修得し、知識・技能・態度の評価において、コンピテンシーで定められた能力を修得しアウトカムを達成したと認められたものに学位を授与します。

アウトカム

1. 医療人としての態度
 - 生命尊重を第一義とする倫理観・責任感と、良識ある人間性を有し、医療チームの構成員として、共感力とコミュニケーション力を備えた患者中心の医療を実践できる。
2. 医療人としての知識・技能
 - 医療における高度専門職業人として、医学及び関連領域の知識と技能を応用して、科学的根拠に基づいた適切な医療活動を実践できるとともに、日々進歩する医学的知識・技能を、生涯に渡って学修することができる。
3. 医療人としての地域性・国際性
 - 地域(とくに福井県)の社会的ニーズを踏まえた地域医療を実践できるとともに、グローバルな視点に立って医療の国際化に貢献できる。

コンピテンシー

- コンピテンシー大領域
 - (1) 医の倫理とプロフェッショナリズム
 - 生命尊重を第一義とする倫理観を持ち、医療における高度専門職業人としての責任感・価値観を有し、礼節ある態度・良識と、自己の心身管理能力をもって行動できる。
 - (2) 人間性の形成とコミュニケーション
 - 人間性の基盤となる教養的知識を有し、患者中心医療のための共感と尊重に基づく人間関係構築と適切なコミュニケーションを実践することができる。
 - (3) チーム医療
 - 医療に関わる人々の役割を認識・理解し、医療チームの構成員として、医師同士・多職種者と協力・連携することができる。
 - (4) 医学及び関連領域の知識と問題解決能力・生涯学習
 - 医学の基盤となる基礎・臨床・社会医学等の知識を持ち、疾患の病因・病態等の理解に応用できる。そのために、自ら学ぶ意欲を持ち、問題を解決し、生涯に渡って学修する能力を有する。
 - (5) 診療の実践と患者ケア・医療安全
 - 医学知識に基づいた基本的臨床手技を用いて、患者に敬意を示しつつ、苦痛や不安感に配慮した効果的かつ安全な診療を、指導医の指導・監督のもとで実施できる。
 - (6) 科学的思考
 - 科学的根拠に基づいた医療実践のため、医学における科学研究の意義を理解し、情報の収集と評価のための論理的・批判的思考ができる。
 - (7) 医療の社会性と地域医療・国際的視点
 - 医師の社会的役割を理解し、保健・医療・福祉の資源活用による疾病予防と健

康増進、地域事情に即した医療への貢献とともに、グローバルな視点に立って医療の国際化に貢献できる。

(8) 福井医療力

- 福井県の社会的ニーズを踏まえて、救急医療や緊急被ばく時に対応可能な医療を実践できる。また、福井大学医学士として、後輩等への教育・指導ができる。

各アウトカム達成に必要な能力をコンピテンシー大領域として定め、各大領域のもとにさらに具体的な能力としてコンピテンシー小領域を設定しています。

コンピテンシー小領域、アウトカムとコンピテンシーの対応は、別表「医学科アウトカム・コンピテンシー対応表」に示します。

医学科アウトカム・コンピテンシー対応表

アウトカム1 医療人としての態度		
生命尊重を第一義とする倫理観・責任感と、良識ある人間性を有し、医療チームの構成員として、共感力とコミュニケーション力を備えた患者中心の医療を実践できる。		
コンピテンシー（1） 医の倫理とプロフェッショナリズム		
生命尊重を第一義とする倫理観を持ち、医療における高度専門職業人としての責任感・価値観を有し、礼節ある態度・良識と、自己の心身管理能力をもって行動できる。		
①	使命感	確立した使命感を持ち、責任感を持って行動できる。
②	倫理観	医療における倫理的問題を理解し、倫理的原則に基づいて行動できる。
③	医療法制	医療法制を理解し、医療における法的責任・規範を遵守できる。
④	礼儀とマナー	適切な身だしなみや言動、社会のルールやマナー、常識に従って、礼節ある態度・行動をとることができる。
⑤	自己管理	自己の時間、健康、衛生等を管理できる。
⑥	多様性	患者とその関係者の心理・社会的背景を理解し、多様性を受け入れることができる。
コンピテンシー（2） 人間性の形成とコミュニケーション		
人間性の基盤となる教養的知識を有し、患者中心医療のための共感と尊重に基づく人間関係構築と適切なコミュニケーションを実践することができる。		
①	一般教養	人間や社会、科学に関する教養的知識を有し、豊かな人間性の形成に努めることができる。
②	共感力	人の行動と心理の基本を理解し、相手の立場に立って考え、話を聴き、尊重と思いやりの心を持って、他者に共感することができる。
③	コミュニケーション力	コミュニケーションの基本を理解し、患者とその関係者と信頼関係を築き、協力が得られるコミュニケーションを実践できる。
④	プレゼンテーション力	修得した知識や情報、自身の意見を明確にプレゼンテーションでき、質問に的確に応えることができる。
コンピテンシー（3） チーム医療		
医療に関わる人々の役割を認識・理解し、医療チームの構成員として、医師同士・多職種者と協力・連携することができる。		
①	チーム医療	医療チームの構成員として、メンバーと協調性を持って良好

		な人間関係・チームワークを築くことができる。
②	多職種連携実践	医療チームに関わる各職種の役割を認識・理解し、互いに尊重して適切にチーム医療を実践することができる
アウトカム2 医療人としての知識・技能		
医療における高度専門職業人として、医学及び関連領域の知識と技能を応用して、科学的根拠に基づいた適切な医療活動を実践できるとともに、日々進歩する医学的知識・技能を、生涯に渡って学修することができる。		
コンピテンシー（４） 医学及び関連領域の知識と問題解決能力・生涯学修		
医学の基盤となる基礎・臨床・社会医学等の知識を持ち、疾患の病因・病態等の理解に応用できる。そのために、自ら学ぶ意欲を持ち、問題を解決し、生涯に渡って学修する能力を有する。		
①	基礎科学	自然科学・行動科学・社会科学の知識を修得し、基礎・臨床・社会医学の理解に応用できる。
②	基礎医学・社会医学	基礎医学・社会医学の基本原則を理解し、知識を修得、臨床医学の理解に応用できる。
③	臨床医学	主要な疾患について、疫学・病因・病理・病態・症候・予後を説明できる。
④		主要な疾患について、治療法を説明できる。
⑤	自己学修・問題解決	自ら知識や情報を修得し、それをもとに問題の抽出、思考、解決ができる。
⑥	生涯学修	日々進歩する医学的知識・技能を、生涯に渡って学修する能力を有する。
コンピテンシー（５） 診療の実践と患者ケア・医療安全		
医学知識に基づいた基本的臨床手技を用いて、患者に敬意を示しつつ、苦痛や不安感に配慮した効果的かつ安全な診療を、指導医の指導・監督のもとで実施できる。		
①	病態聴取	患者の主要な病歴を正確に聴取できる。
②	身体診察・基本的臨床手技	身体診察と基本的臨床手技を適切に実践できる。
③	検査	主要な疾患の診断に必要な検査計画を立て、得られた結果を解釈できる。
④	診断	主要な疾患の病態を把握し、診断を確定することができる。
⑤	治療計画	患者の診断・病態に基づいた適切な治療計画を立てることができる。
⑥	医療文書・医療プレゼンテーション	診療録など医療文書を適切に作成し、プレゼンテーションできる。
⑦	説明と同意	患者に検査や治療について説明でき、同意を適切にとることができる
⑧	医療安全	医療安全の知識を持ち、患者及び医療者の安全を優先した医療を実践できる
コンピテンシー（６） 科学的思考		
科学的根拠に基づいた医療実践のため、医学における科学研究の意義を理解し、情報の収集と評価のための論理的・批判的思考ができる。		
①	科学研究	科学研究の理論・方法論を理解し、科学的根拠に基づく論理的・批判的思考ができる。

②	科学的探究心	医療における問題解決のための科学的な探究心を持つ。
③	医学英語力	科学的知識、医学知識を論文等から修得できる英語力を持つ。

アウトカム3 医療人としての地域性・国際性

地域（とくに福井県）の社会的ニーズを踏まえた地域医療を実践できるとともに、グローバルな視点に立って医療の国際化に貢献できる。

コンピテンシー（7） 医療の社会性と地域医療・国際的視点

医師の社会的役割を理解し、保健・医療・福祉の資源活用による疾病予防と健康増進、地域事情に即した医療への貢献とともに、グローバルな視点に立って医療の国際化に貢献できる。

①	予防・健康	保険・医療・福祉に関わる施設・職とその役割を理解し、それらと連携することで、疾病予防・健康増進に貢献できる。
②	地域医療	地域社会のニーズに対応した医療が実践できる。
③	国際的視点	異文化・異社会を理解できる国際的な感性と言語力を有し、グローバルな視点で医療活動ができる。

コンピテンシー（8） 福井医療力

福井県の社会的ニーズを踏まえて、救急医療や緊急被ばく時に対応可能な医療を実践できる。また、福井大学医学士として、後輩等への教育・指導ができる。

①	福井医療事情	福井県の医療事情を把握し、説明できる。
②	救急医療	救急医療に対応可能な総合医として実践できる。
③	緊急被ばく医療	緊急被ばく時に医療対応ができる。
④	教育力・指導力	後輩等に医学の知識・技能・態度に渡る教育・指導ができる。

○看護学科

医学部看護学科では、理念・教育目的・人材育成目標に基づき、看護学科生が卒業時に達成すべき学修成果を「アウトカム」（3項目）として掲げ、それらを達成するために4年間で修得すべき能力を「コンピテンシー」（大領域8項目、小領域34項目）として設定しています。

所定の期間在学し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定した授業科目を履修し、履修規定で定められた卒業に必要な単位・時間数を修得し、知識・技能・態度の評価において、コンピテンシーで定められた能力を修得しアウトカムを達成したと認められたものに学位を授与します。

アウトカム

1. 医療人としての態度

生命と人間の尊重を第一義とする倫理観・責任感と、良識ある人間性を有し、医療・保健・福祉チームの構成員として、共感力、多様性とコミュニケーション力を備えた対象者中心の看護を実践できる。

2. 医療人としての知識・技能

医療・保健・福祉分野における高度専門職業人として、看護学及び関連領域の知識と技能を応用して、科学的根拠に基づいた適切なヒューマンケアを実践できるとともに、日々進歩する医学・看護学的知識・技能を、生涯に渡って学修することができる。

3. 医療人としての地域性・国際性

地域（特にふくい）の社会的ニーズを踏まえた地域医療・ケアを実践できるとともに、グローバルな視点に立ってふくいの地域医療に貢献できる。

コンピテンシー

- (1) 人間性の形成とコミュニケーション
対象者中心の看護を展開するため、人間性の基盤となる教養的知識を有し、共感と多様性に基づく人間関係の構築、適切なコミュニケーションを実践できる。
- (2) 全人的理解とプロフェッショナリズム
対象となる人及び集団の健康、生活、環境を包括的に理解し、医療・保健・福祉における高度専門職業人としての価値観と責任感を有し、礼節ある態度・良識と、自己管理能力をもって行動できる。
- (3) 看護倫理とヒューマンケア
生命と人間の尊重を第一義とする倫理観を持ち、人々の尊厳・権利擁護を考慮し、対象者の意思決定に基づく看護を、敬意をもって実践できる。
- (4) 看護学及び関連領域の知識と根拠に基づいた看護実践
看護学及び関連領域の知識に基づいた看護技術を用いて、身体的、心理・社会的安楽をもたらす、効果的かつ安全な看護を実践できる。
- (5) 特定の健康課題に対応する看護実践
看護の社会的役割を理解し、対象者のライフステージ、健康レベル、特定の健康課題に対応した看護を実践できる。
- (6) 科学的思考と生涯にわたる看護の探求・研鑽
看護学研究の意義を理解し、科学的根拠に基づいた看護実践のため、情報の収集と評価のための論理的・批判的思考ができる。そのために、自ら学ぶ意欲とリサーチマインドを持ち、生涯に渡って学修する基本的能力を有する。
- (7) 多様なケア環境・地域特性と支援チーム体制・協働
対象者の文化的背景、地域特性を考慮した支援チーム構築のため、医療・保健・福祉に関わる人々の役割を認識・理解し、チーム構成員として看護職同士・多職種・地域住民と協働・連携することができる。
- (8) ふくい看護力
ふくいの風土、医療・保健・福祉の実情、社会的ニーズを踏まえて、ふくいに暮らす生活者の視点に立ち、ふくいの健康課題、へき地での医療課題に対応可能な看護を実践できる。また、学生間で指導・相談対応ができる。
各アウトカム達成に必要な能力をコンピテンシー大領域として定め、拡大領域のもとにさらに具体的な能力としてコンピテンシー小領域を設定しています。
コンピテンシー小領域、アウトカムとコンピテンシーの対応は、別表「看護学科アウトカム・コンピテンシー対応表」に示します。

(別表) 看護学科アウトカム・コンピテンシー対応表

アウトカム1 医療人としての態度		
生命と人間の尊重を第一義とする倫理観・責任感と、良識ある人間性を有し、医療・保健・福祉チームの構成員として、共感力、多様性とコミュニケーション力を備えた対象者中心の看護を実践できる。		
コンピテンシー(1) 人間性の形成とコミュニケーション		
対象者中心の看護を展開するため、人間性の基盤となる教養的知識を有し、共感と多様性に基づく人間関係の構築、適切なコミュニケーションを実践できる。		
①	一般教養	人間や社会、科学、文化に関する教養的知識を有し、豊かな人間性の形成に努めることができる。
②	共感力	人の行動と心理の基本を理解し、相手の立場に立って考え、話を聴き、尊重と思いやりの心を持って、他者に共感できる。
③	コミュニケーション力	コミュニケーションの基本を理解し、対象者、その関係者と信頼関係を築き、コミュニケーションを実践できる。

④	プレゼンテーション力	修得した知識や情報、自己の意見を明確に伝え、質問に的確に対応できる。
⑤	英語力	コミュニケーションに必要な基礎的英語力を持つ。
コンピテンシー（２） 全人的理解とプロフェッショナリズム		
対象となる人及び集団の健康、生活、環境を包括的に理解し、医療・保健・福祉における高度専門職業人としての価値観と責任感を有し、礼節ある態度・良識と、自己管理能力をもって行動できる。		
①	全人的対象理解	人間、生活、健康、環境及び各々の関連を踏まえ、対象者をアセスメントできる。
②	多様性	対象者とその関係者の心理・社会・文化的背景と価値観を理解し、多様性を受け入れることができる。
③	自己管理	自己の生活を整え、健康を管理できる。
④	課題対応	自ら知識や情報を修得し、それをもとに課題の抽出、目標設定、解決ができる。
⑤	礼儀とマナー	適切な身だしなみや言動、社会のルールやマナー、常識に従って、礼節ある態度・行動をとることができる。
⑥	使命感	看護職として使命感を持ち、責任感を持って行動できる。
⑦	看護の法的基盤	関係法規を理解し、看護における法的責任・規範を遵守できる。
コンピテンシー（３） 看護倫理とヒューマンケア		
生命と人間の尊重を第一義とする倫理観を持ち、人々の尊厳・権利擁護を考慮し、対象者の意思決定に基づく看護を、敬意をもって実践できる。		
①	倫理観	看護における倫理的問題を理解し、倫理的原則に基づいて行動できる。
②	尊厳・権利擁護	対象者の尊厳と権利を擁護するための援助的人間関係を形成できる。
③	説明責任	対象者に看護行為について適切に説明し、同意を得ることができる。
④	意思決定支援	対象者の価値観を尊重し、意思決定を支援できる。
アウトカム２ 医療人としての知識・技能		
医療・保健・福祉分野における高度専門職業人として、看護学及び関連領域の知識と技能を応用して、科学的根拠に基づいた適切なヒューマンケアを実践できるとともに、日々進歩する医学・看護学的知識・技能を、生涯に渡って学修することができる。		
コンピテンシー（４） 看護学及び関連領域の知識と根拠に基づいた看護実践		
看護学及び関連領域の知識に基づいた看護技術を用いて、身体的、心理・社会的安楽をもたらす、効果的かつ安全な看護を実践できる。		
①	対象理解の基礎科学	自然科学・行動科学・社会科学の知識を修得し、対象者理解のために応用できる。
②	看護実践の専門基礎科学	主要な健康障害について、病態と回復過程、診断に用いる検査・治療に関する看護実践を説明できる。
③	看護技術	基本的看護技術を適切に実践できる。
④	看護過程の展開	対象者の生活歴、病歴及び経験や意向に沿ったニーズを正確に把握し、対象者を多面的にアセスメントできる。根拠に基づき適切な看護計画を立案し、目標達成に向け看護を実践で

		きる。
⑤	看護の質と安全	医療安全の知識を持ち、対象者及び医療者の安全・安楽を考慮し、対象者の Quality Of Life 向上をもたらす看護を実践できる。
コンピテンシー（５） 特定の健康課題に対応する看護実践		
看護の社会的役割を理解し、対象者のライフステージ、健康レベル、特定の健康課題に対応した看護を実践できる。		
①	ライフステージ	発達段階・ライフステージに応じた看護を実践できる。
②	健康レベル	健康生活の保持と健康障害の予防に貢献できる。また、急激な健康破綻と回復、慢性疾患及び慢性的な健康課題、エンドオブライフ期に応じた看護を実践できる。
③	在宅看護	地域社会のニーズに対応した在宅看護が実践できる。
コンピテンシー（６） 科学的思考と生涯にわたる看護の探求・研鑽		
看護学研究の意義を理解し、科学的根拠に基づいた看護実践のため、情報の収集と評価のための論理的・批判的思考ができる。そのために、自ら学ぶ意欲とリサーチマインドを持ち、生涯に渡って学修する基本的能力を有する。		
①	科学的研究	科学的研究の理論・方法論を理解し、科学的根拠に基づく論理的・批判的思考ができる。
②	科学的探究心	看護における課題対応のための科学的な探究心を持つ。
③	生涯学修	日々進歩する看護学的知識・技能を、生涯に渡って学修する基本的能力を有する。

アウトカム３ 医療人としての地域性・国際性

地域（特にふくい）の社会的ニーズを踏まえた地域医療・ケアを実践できるとともに、グローバルな視点に立ってふくいの地域医療に貢献できる。

コンピテンシー（７） 多様なケア環境・地域特性と支援チーム体制・協働

対象者の文化的背景、地域特性を考慮した支援チーム構築のため、医療・保健・福祉に関わる人々の役割を認識・理解し、チーム構成員として看護職同士・多職種・地域住民と協働・連携することができる。

①	チーム医療	医療チームの構成員として、メンバーと協調性を持って良好な人間関係・チームワークを築くことができる。
②	多職種連携	医療・保健・福祉チームに関わる各職種の役割と専門性を理解し、互いに尊重できる。
③	地域包括ケア	地域ケア構築の必要性と地域包括ケアにおける看護の役割を理解し、地域住民と連携し協働できる関係を構築できる。
④	グローバルな視点	異文化・異社会に関心を持ち、グローバルな視点で看護を実践できる。

コンピテンシー（８） ふくい看護力

ふくいの風土、医療・保健・福祉の実情、社会的ニーズを踏まえて、ふくいに暮らす生活者の視点に立ち、ふくいの健康課題、へき地での医療課題に対応可能な看護を実践できる。また、学生間で指導・相談対応ができる。

①	ふくいの医療・保健・福祉	ふくいの医療・保健・福祉の現状と課題を把握し、説明できる。
②	へき地医療	へき地の地域特性に応じた看護実践ができる。
③	指導力・相談対応力	学生間で看護学の知識・技能・態度に渡る指導・相談対応ができる。

(工学部)

工学部では以下のような卒業生を社会に送り出します。

1. 基礎的な知識・教養、および専門的知識・能力を有している。
2. 創造力、自己学習力、問題解決能力、およびコミュニケーション能力を有している。
3. 高度専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、幅広い視野をもって社会の発展に貢献できる。

○機械・システム工学科

機械・システム工学科では、以下の要件を満たし、安全で安心な社会および人と環境が調和した社会を創造する革新的なものづくりに貢献できる高度専門技術者を輩出する。

1. 機械工学、ロボティクス、および原子力安全工学に関する専門知識と技術を有している。
2. 専門にとらわれない幅広い知識・教養と異分野コミュニケーション能力を有し、広い視野で協力して未知の問題に取り組むことができる。
3. 高い倫理観と責任感を持って、国際社会において先導的立場で活躍することができる。

○電気電子情報工学科

電気電子情報工学科では以下のような能力を備えた専門技術者になり得る者に学士の学位を授与する。

1. 電気、電子、情報、通信工学に関する体系的な専門知識とその高度な応用力を有する。
2. 実世界の問題について理解し、科学技術の発展と変遷に対応した新しい技術を開発する意欲を有する。
3. 自律的学習力、自己表現力、相互理解力を有する。
4. 高度専門技術者としての社会・組織に対する倫理観および責任感を有する。

○建築・都市環境工学科

以下の知識、能力、資質を備えた者に学士の学位を授与する。

1. 建築・都市環境工学に関わる包括的な専門基礎知識と基礎能力、及び社会の要求を見極めた体系的デザイン力や地球的視野に基づく思考力を有している。
2. 生活空間を構築する技術者としての倫理観、責任感、及び論理的思考力・表現力・課題設定力・計画立案実践力を有している。
3. 生活空間の構築に関わる技術者としての専門知識を備え、それを計画・設計・施工・維持管理などに創造的に応用できる能力を有している。

○物質・生命化学科

物質・生命化学科では、卒業要件に定められた単位を修得し、以下に示す能力・技能を身につけた学生に学位を授与する。

A. 関心・意欲・態度

A-1 【技術者倫理】技術が社会や環境に及ぼす影響や効果を説明でき、持続可能な社会の実現を目指す意欲を有している。

A-2 【自主学修】自主的・継続的に学習することができる。

A-3 【協調性】他者と協力して問題解決に取り組むことができる。

B. 思考・判断

B-1 【多面的思考】グローバルな視点から多面的に物事を考えることができる。

B-2 【計画性】計画的に仕事を進め、まとめることができる。

C. 技能・表現

C-1 【デザイン能力】科学と技術を活用して社会の要求を解決するための工学的デザインを提案できる。

C-2 【コミュニケーション】日本語で論理的に記述し、的確に発表し、討議を行うことができる。また、英語で基礎的なコミュニケーションを行うことができる。

<p>D. 知識・理解</p> <p>D-1 【工学基礎】 数学、自然科学に関する知識を持ち、応用することができる。</p> <p>D-2 【専門力】 物質・生命化学に関する知識を持ち、問題解決に応用することができる。</p> <p>○応用物理学科</p> <p>下記の箇条に示したような、物理学を中心とした理工学の基礎知識を有し先端分野におけるものづくりへの応用力を身につけた者に学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 物理学を中心とした理工学の確固たる基礎知識と、その応用力を身につけている。 2. 基礎知識に基づいてものごとの本質を捉えた上でその知見から総合的に発想し、未知の技術革新に対応することができる。 3. 新しい知識・技術を自ら学ぶことや、計画的に課題の解決に取り組むことができる。 4. 技術者としての倫理観を持ち、グローバルな視点に立って問題を多角的に把握することができる。 5. 他者とコミュニケーションをとることや、協力してプロジェクトを進めることができる。 <p>(国際地域学部)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い教養と専門的な知識・能力を有している。 2. 地域や国際社会の抱える課題と発展可能性を探り、リサーチすることができ、その問題の解決と可能性の実現を通して、グローバル社会の発展と地域創生に貢献することができる。 3. グローバル化する社会において求められる国際的な視野や批判的思考力を身につけ、英語を中心とする外国語能力も含めた多文化共生を支える異文化理解とコミュニケーション能力をもち、行政・企業・地域等で対応し、活躍することができる。 	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>「ディプロマ・ポリシー」 (全学共通)</p> <p>https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/4-0_cp_dp_whole.pdf (教育学部)</p> <p>https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/4-1_cp_dp_edu.pdf (医学部)</p> <p>https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/4-2_cp_dp_med.pdf (工学部)</p> <p>https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/4-3_cp_dp_eng.pdf (国際地域学部)</p> <p>https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/4-4_cp_dp_glo.pdf</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	福井大学
設置者名	国立大学法人福井大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/finance/
収支計算書又は損益計算書	https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/finance/
財産目録	—
事業報告書	https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/finance/
監事による監査報告(書)	https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/finance/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:年度計画)	対象年度:平成31年度)
公表方法: https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/outline/management03/	
中長期計画(名称:中期目標・中期計画)	対象年度:平成28～33年度)
公表方法: https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/outline/management01/	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/outline/management06/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/outline/management05/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 教育学部
教育研究上の目的（公表方法：「教育学部規程等・教育研究上の目的」 https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/3-1_purpose_edu.pdf ）
（概要） （教育研究上の目的） 第 2 条 学則第 2 条第 3 項に規定する、本学部における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的については、別に定める。 （「福井大学教育学部規程」から抜粋） 「福井大学学則（平成 16 年福大学則第 1 号）第 2 条第 3 項の規定に基づく教育学部における人材の養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的」（平成 28 年 4 月 1 日学長裁定） 福井大学学則第 2 条第 3 項に規定する、本学部における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりである。 学 部 本学部は、学校教育を取り巻く様々な課題に対して、高い専門性ととも実践的力量をもって積極的に取り組むことのできる学校教員の養成を目的とし、教育科学や関連する諸科学の学際的総合的な研究成果によって広く社会の発展に寄与することを使命とする。 課 程 教科・領域等の専門性を横断的・系統的に身につけることにより、子どもたちの探究心、思考力及び創造性を育み、地域と連携した教育環境を組織できる教員の養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：「ディプロマ・ポリシー」 https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/4-1_cp_dp_edu.pdf ）
（概要） 教育学部では、修業年限以上在学し、かつ教育課程編成の方針に基づいて編成された科目を履修し、共通教育規程および教育学部規程において定められた単位数を取得することにより、教科や教職の専門的・実践的力量ならびに公教育の担い手としての自覚と責任感を備え、以下のような能力を身につけたと認められる者に対して学位を授与する。 1. 生涯にわたって学び続ける基盤 地域や学校における実践コミュニティの一員として、また学びの専門職として、地域に参画し、他者と協働し、生涯にわたって学び続ける基盤を有する。 2. 協働的な学習や探究的な学習の指導と評価 子どもたちが主体的・協働的に学習できるように、また教科・領域の特性に応じた探究的な学習を行うことができるように、教育の目的・目標・内容、および子どもの発達や地域・グローバル社会に関する知識に基づいて指導と評価の計画を立てることができる。 3. 教科・領域における重要な概念と探究の方法に関する理解

<p>子どもたちの知的・社会的・個性的な発達を支援するために、各教科・領域における重要な概念と固有の探究方法、およびそれらを子どもたちが学習していくプロセスに関して深い理解を有する。</p> <p>4. 民主的な集団活動の指導 学校や教室の社会的・文化的文脈を認識したうえで、子どもたちが平和で民主的な社会のあり方と人間らしい生き方について理解を深められるように、集団活動の運営方法を指導することができる。</p> <p>5. 子どもたちの個性に応じた成長と発達の支援 人間の成長・発達について深い理解を形成し、子どもたち一人ひとりの個性に応じた成長と発達を支援することができる。</p> <p>6. 学識形成の足跡を示す学習成果の公開 上記1から5の能力を裏付けるために、学識が形成された足跡を示す学習成果をまとめて、公開することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：「カリキュラム・ポリシー」 https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/4-1_cp_dp_edu.pdf）</p>
<p>（概要）</p> <p>学校教育課程では、公教育の担い手として多様な人々と協働しながら、学識に支えられた指導力により子どもたちの学習・発達を支援し、生涯にわたって学び続ける教師を育てるために、以下のような特徴を有する教育課程を編成し、実施する。</p> <p>1. 幅広い専門領域を担う教員組織と新しいカリキュラム開発 多様な教科や領域の教員が協働し、地域・社会の諸課題を視野に入れた授業やカリキュラムを開発する。また、地域との連携やグローバル社会を視野に入れた学校教育の重要性を考えることのできる人材を育成する。</p> <p>2. 実践と省察を繰り返す協働的な学習 子どもたちの成長と発達を促す実践への参加と省察を繰り返す学習経験を積ませる。全学年の学生が協働して探究することにより、専門職としての教師に求められる学習を積み重ねる。</p> <p>3. 教科・領域の専門性を高めるための科目配置 教科・領域が成立する根拠や意義、歴史的背景への理解をベースに、教科・領域の目的・目標・内容・方法に関する専門性を培う。さらに各教科・領域のカリキュラム・単元・授業・教材・活動内容の提案、事例研究を行いながら、教科横断的、系統的な視野に基づいた学習を組織することができる実践的力量を形成する。</p> <p>4. 深い人間理解を促すための科目配置 人間の教育・心理に対する専門的理解を深めながら、就学前段階にある幼児や特別な教育的ニーズをもった児童・生徒の成長も視野に入れ、多様な視点から子どもの成長や発達を支援することができる力量を形成する。</p> <p>5. 学び続けることのできる教師の育成 学識形成の足跡を示す学びの履歴・成果をまとめることにより、世代継承サイクルを組み込んだ学習コミュニティを形成する。専門職としての総合的な能力を評価するために、協働探究のプロセスやそこで育まれた能力を把握し、学習個人誌を作成・公開する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：「アドミッション・ポリシー」 https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/4-1_ap_edu.pdf）</p>
<p>（概要）</p> <p>【求める学生像】</p>

1. 高等学校などで身につけた基礎学力の上に立って、主体的・協働的に学ぶことができる人
2. 人間の教育や心理に興味を持ち、初等・中等教育における各教科の教育に強い関心を抱いている人
3. 子どもの成長を支えられる豊かな人間性と優れたコミュニケーション能力を有している人
4. 教育への情熱や探究心を持ち、学校を中心とする地域・社会の諸課題に積極的に取り組んでいこうとする人

【入学者選抜の基本方針】

○一般入試（前期日程）

基礎学力を総合的に判定するために、大学入試センター試験を課します。さらに、文系型・理系型の選抜では、選抜区分に応じた教科・科目の学力を重視した学力検査を実施し、専門分野の学習に必要な知識・能力を評価します。また、実技型（音楽）・実技型（美術）・実技型（体育）の選抜では、実技検査及び面接（口述試験を含む）を実施し、専門分野の学習に必要な知識・技能及び意欲を評価します。なお、実技型（体育）の選抜では、面接は実施しません。

○一般入試（後期日程）

基礎学力を総合的に判定するために、大学入試センター試験を課します。さらに、教育、文化、科学・技術、人間の発達に関わる課題を扱った小論文を課します。また、特別支援型の選抜では、特別支援教育に関連する資料を扱った小論文を加えて課し、専門分野の学習に必要な論理的思考力や表現力を評価します。

○推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない）

・実技型（技術）

調査書、推薦書、志願理由書により、技術科で学ぶ者に求められる資質・能力、適性を評価します。また、実技検査、実技型小論文及び面接（口述試験を含む）により、基礎的技能の程度と技術教育への興味・関心、目的意識や意欲、論理的思考力を評価します。

○推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）

・面接型

大学入試センター試験により基礎学力を総合的に判定し、調査書、推薦書、志願理由書により、初等及び中等教育を学ぶための資質、適性を評価します。また、面接（プレゼンテーション及び口述試験を含む）により、目的意識や意欲、論理的思考力を評価します。

・実技型（音楽）

大学入試センター試験により基礎学力を総合的に判定し、調査書、推薦書、志願理由書及び面接（口述試験を含む）により、音楽及び音楽教育に対する理解や意欲について評価します。また、実技検査では、選択課題となるピアノと声楽の実技により、表現の技能及び音楽性を判定します。

・実技型（美術）

大学入試センター試験により基礎学力を総合的に判定し、調査書、推薦書、志願理由書及び面接（口述試験を含む）により、美術及び図画工作・美術科教育に対する理解や意欲について評価します。また、実技検査では、デッサン、造形感覚考査等により、専門領域における実技能力、表現力を判定します。

学部等名 医学部

教育研究上の目的（公表方法：「医学部規程・教育研究上の目的」）

https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/3-2_purpose_med.pdf)

(概要)

(教育研究上の目的)

第2条 本学部は、理念に基づき、人間形成を基盤に生命尊重を第一義とする医の心の態度を体得するとともに、世界水準の医学および看護学の知識と技能を修得し、地域社会や国際社会で活躍できる医療人および研究者を育成する。

2 本学部に、医学科及び看護学科を置き、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

医学科

確かな知識と技能に基づく質の高い臨床能力と、生命尊重を第一義とする共感力と倫理観を有し、根拠に立脚した患者中心の医療を実践できる医師や、医学の進展に貢献する高い能力を身につけた医学研究者を育成し、医学・医療の進歩を通じて社会に貢献することを目的とする。

看護学科

高い倫理観と良識ある人間性を有し、科学的根拠に基づいた看護を実践でき、知識・技能を生涯にわたり修得し続ける高度専門職業人を育成し、看護学の発展と地域社会に貢献することを目的とする。

(「福井大学医学部規程」から抜粋)

卒業の認定に関する方針（公表方法：「ディプロマ・ポリシー」

https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/4-2_cp_dp_med.pdf)

○医学科

医学部医学科では、理念・教育目的・人材育成目標に基づき、医学科生が卒業時に達成すべき学修成果を「アウトカム」（3項目）として掲げ、それらを達成するために6年間で修得すべき能力を「コンピテンシー」（大領域8項目、小領域36項目）として設定しています。

所定の期間在学し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定した授業科目を履修し、履修規定で定められた卒業に必要な単位・時間数を修得し、知識・技能・態度の評価において、コンピテンシーで定められた能力を修得しアウトカムを達成したと認めたものに学位を授与します。

アウトカム

1. 医療人としての態度

- 生命尊重を第一義とする倫理観・責任感と、良識ある人間性を有し、医療チームの構成員として、共感力とコミュニケーション力を備えた患者中心の医療を実践できる。

1. 医療人としての知識・技能

- 医療における高度専門職業人として、医学及び関連領域の知識と技能を応用して、科学的根拠に基づいた適切な医療活動を実践できるとともに、日々進歩する医学的知識・技能を、生涯に渡って学修することができる。

2. 医療人としての地域性・国際性

- 地域（とくに福井県）の社会的ニーズを踏まえた地域医療を実践できるとともに、グローバルな視点に立って医療の国際化に貢献できる。

コンピテンシー

- コンピテンシー大領域

(1) 医の倫理とプロフェッショナリズム

- 生命尊重を第一義とする倫理観を持ち、医療における高度専門職業人としての責任感・価値観を有し、礼節ある態度・良識と、自己の心身管理能力をもって行動できる。
- (2) 人間性の形成とコミュニケーション
- 人間性の基盤となる教養的知識を有し、患者中心医療のための共感と尊重に基づく人間関係構築と適切なコミュニケーションを実践することができる。
- (3) チーム医療
- 医療に関わる人々の役割を認識・理解し、医療チームの構成員として、医師同士・多職種者と協力・連携することができる。
- (4) 医学及び関連領域の知識と問題解決能力・生涯学習
- 医学の基盤となる基礎・臨床・社会医学等の知識を持ち、疾患の病因・病態等の理解に応用できる。そのために、自ら学ぶ意欲を持ち、問題を解決し、生涯に渡って学修する能力を有する。
- (5) 診療の実践と患者ケア・医療安全
- 医学知識に基づいた基本的臨床手技を用いて、患者に敬意を示しつつ、苦痛や不安感に配慮した効果的かつ安全な診療を、指導医の指導・監督のもとで実施できる。
- (6) 科学的思考
- 科学的根拠に基づいた医療実践のため、医学における科学研究の意義を理解し、情報の収集と評価のための論理的・批判的思考ができる。
- (7) 医療の社会性と地域医療・国際的視点
- 医師の社会的役割を理解し、保健・医療・福祉の資源活用による疾病予防と健康増進、地域事情に即した医療への貢献とともに、グローバルな視点に立って医療の国際化に貢献できる。
- (8) 福井医療力
- 福井県の社会的ニーズを踏まえて、救急医療や緊急被ばく時に対応可能な医療を実践できる。また、福井大学医学士として、後輩等への教育・指導ができる。

各アウトカム達成に必要な能力をコンピテンシー大領域として定め、各大領域のもとにさらに具体的な能力としてコンピテンシー小領域を設定しています。

コンピテンシー小領域、アウトカムとコンピテンシーの対応は、別表「医学科アウトカム・コンピテンシー対応表」に示します。

医学科アウトカム・コンピテンシー対応表

アウトカム1 医療人としての態度		
生命尊重を第一義とする倫理観・責任感と、良識ある人間性を有し、医療チームの構成員として、共感力とコミュニケーション力を備えた患者中心の医療を実践できる。		
コンピテンシー(1) 医の倫理とプロフェッショナリズム		
生命尊重を第一義とする倫理観を持ち、医療における高度専門職業人としての責任感・価値観を有し、礼節ある態度・良識と、自己の心身管理能力をもって行動できる。		
①	使命感	確立した使命感を持ち、責任感を持って行動できる。
②	倫理観	医療における倫理的問題を理解し、倫理的原則に基づいて行動できる。
③	医療法制	医療法制を理解し、医療における法的責任・規範を遵守で

		きる。
④	礼儀とマナー	適切な身だしなみや言動、社会のルールやマナー、常識に従って、礼節ある態度・行動をとることができる。
⑤	自己管理	自己の時間、健康、衛生等を管理できる。
⑥	多様性	患者とその関係者の心理・社会的背景を理解し、多様性を受け入れることができる。
コンピテンシー（２） 人間性の形成とコミュニケーション		
人間性の基盤となる教養的知識を有し、患者中心医療のための共感と尊重に基づく人間関係構築と適切なコミュニケーションを実践することができる。		
①	一般教養	人間や社会、科学に関する教養的知識を有し、豊かな人間性の形成に努めることができる。
②	共感力	人の行動と心理の基本を理解し、相手の立場に立って考え、話を聴き、尊重と思いやりの心を持って、他者に共感することができる。
③	コミュニケーション力	コミュニケーションの基本を理解し、患者とその関係者と信頼関係を築き、協力が得られるコミュニケーションを実践できる。
④	プレゼンテーション力	修得した知識や情報、自身の意見を明確にプレゼンテーションでき、質問に的確に応えることができる。
コンピテンシー（３） チーム医療		
医療に関わる人々の役割を認識・理解し、医療チームの構成員として、医師同士・多職種者と協力・連携することができる。		
①	チーム医療	医療チームの構成員として、メンバーと協調性を持って良好な人間関係・チームワークを築くことができる。
②	多職種連携実践	医療チームに関わる各職種の役割を認識・理解し、互いに尊重して適切にチーム医療を実践することができる
アウトカム２ 医療人としての知識・技能		
医療における高度専門職業人として、医学及び関連領域の知識と技能を応用して、科学的根拠に基づいた適切な医療活動を実践できるとともに、日々進歩する医学的知識・技能を、生涯に渡って学修することができる。		
コンピテンシー（４） 医学及び関連領域の知識と問題解決能力・生涯学修		
医学の基盤となる基礎・臨床・社会医学等の知識を持ち、疾患の病因・病態等の理解に応用できる。そのために、自ら学ぶ意欲を持ち、問題を解決し、生涯に渡って学修する能力を有する。		
①	基礎科学	自然科学・行動科学・社会科学の知識を修得し、基礎・臨床・社会医学の理解に応用できる。
②	基礎医学・社会医学	基礎医学・社会医学の基本原則を理解し、知識を修得、臨床医学の理解に応用できる。
③	臨床医学	主要な疾患について、疫学・病因・病理・病態・症候・予後を説明できる。
④		主要な疾患について、治療法を説明できる。
⑤	自己学修・問題解決	自ら知識や情報を修得し、それをもとに問題の抽出、思考、解決ができる。
⑥	生涯学修	日々進歩する医学的知識・技能を、生涯に渡って学修する能力を有する。

コンピテンシー（５） 診療の実践と患者ケア・医療安全		
医学知識に基づいた基本的臨床手技を用いて、患者に敬意を示しつつ、苦痛や不安感に配慮した効果的かつ安全な診療を、指導医の指導・監督のもとで実施できる。		
①	病態聴取	患者の主要な病歴を正確に聴取できる。
②	身体診察・基本的臨床手技	身体診察と基本的臨床手技を適切に実践できる。
③	検査	主要な疾患の診断に必要な検査計画を立て、得られた結果を解釈できる。
④	診断	主要な疾患の病態を把握し、診断を確定することができる。
⑤	治療計画	患者の診断・病態に基づいた適切な治療計画を立てることができる。
⑥	医療文書・医療プレゼンテーション	診療録など医療文書を適切に作成し、プレゼンテーションできる。
⑦	説明と同意	患者に検査や治療について説明でき、同意を適切にとることができる。
⑧	医療安全	医療安全の知識を持ち、患者及び医療者の安全を優先した医療を実践できる。
コンピテンシー（６） 科学的思考		
科学的根拠に基づいた医療実践のため、医学における科学研究の意義を理解し、情報の収集と評価のための論理的・批判的思考ができる。		
①	科学研究	科学研究の理論・方法論を理解し、科学的根拠に基づく論理的・批判的思考ができる。
②	科学的探究心	医療における問題解決のための科学的な探究心を持つ。
③	医学英語力	科学的知識、医学知識を論文等から修得できる英語力を持つ。
アウトカム３ 医療人としての地域性・国際性		
地域（とくに福井県）の社会的ニーズを踏まえた地域医療を実践できるとともに、グローバルな視点に立って医療の国際化に貢献できる。		
コンピテンシー（７） 医療の社会性と地域医療・国際的視点		
医師の社会的役割を理解し、保健・医療・福祉の資源活用による疾病予防と健康増進、地域事情に即した医療への貢献とともに、グローバルな視点に立って医療の国際化に貢献できる。		
①	予防・健康	保険・医療・福祉に関わる施設・職とその役割を理解し、それらと連携することで、疾病予防・健康増進に貢献できる。
②	地域医療	地域社会のニーズに対応した医療が実践できる。
③	国際的視点	異文化・異社会を理解できる国際的な感性と言語力を有し、グローバルな視点で医療活動ができる。
コンピテンシー（８） 福井医療力		
福井県の社会的ニーズを踏まえて、救急医療や緊急被ばく時に対応可能な医療を実践できる。また、福井大学医学士として、後輩等への教育・指導ができる。		
①	福井医療事情	福井県の医療事情を把握し、説明できる。
②	救急医療	救急医療に対応可能な総合医として実践できる。
③	緊急被ばく医療	緊急被ばく時に医療対応ができる。
④	教育力・指導力	後輩等に医学の知識・技能・態度に渡る教育・指導ができる。

○看護学科

医学部看護学科では、理念・教育目的・人材育成目標に基づき、看護学科生が卒業時に達成すべき学修成果を「アウトカム」（3項目）として掲げ、それらを達成するために4年間で修得すべき能力を「コンピテンシー」（大領域8項目、小領域34項目）として設定しています。

所定の期間在学し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定した授業科目を履修し、履修規定で定められた卒業に必要な単位・時間数を修得し、知識・技能・態度の評価において、コンピテンシーで定められた能力を修得しアウトカムを達成したと認めたものに学位を授与します。

アウトカム

1. 医療人としての態度

生命と人間の尊重を第一義とする倫理観・責任感と、良識ある人間性を有し、医療・保健・福祉チームの構成員として、共感力、多様性とコミュニケーション力を備えた対象者中心の看護を実践できる。

2. 医療人としての知識・技能

医療・保健・福祉分野における高度専門職業人として、看護学及び関連領域の知識と技能を応用して、科学的根拠に基づいた適切なヒューマンケアを実践できるとともに、日々進歩する医学・看護学的知識・技能を、生涯に渡って学修することができる。

3. 医療人としての地域性・国際性

地域（特にふくい）の社会的ニーズを踏まえた地域医療・ケアを実践できるとともに、グローバルな視点に立ってふくいの地域医療に貢献できる。

コンピテンシー

(1) 人間性の形成とコミュニケーション

対象者中心の看護を展開するため、人間性の基盤となる教養的知識を有し、共感と多様性に基づく人間関係の構築、適切なコミュニケーションを実践できる。

(2) 全人的理解とプロフェッショナルリズム

対象となる人及び集団の健康、生活、環境を包括的に理解し、医療・保健・福祉における高度専門職業人としての価値観と責任感を有し、礼節ある態度・良識と、自己管理能力をもって行動できる。

(3) 看護倫理とヒューマンケア

生命と人間の尊重を第一義とする倫理観を持ち、人々の尊厳・権利擁護を考慮し、対象者の意思決定に基づく看護を、敬意をもって実践できる。

(4) 看護学及び関連領域の知識と根拠に基づいた看護実践

看護学及び関連領域の知識に基づいた看護技術を用いて、身体的、心理・社会的安楽をもたらす、効果的かつ安全な看護を実践できる。

(5) 特定の健康課題に対応する看護実践

看護の社会的役割を理解し、対象者のライフステージ、健康レベル、特定の健康課題に対応した看護を実践できる。

(6) 科学的思考と生涯にわたる看護の探求・研鑽

看護学研究の意義を理解し、科学的根拠に基づいた看護実践のため、情報の収集と評価のための論理的・批判的思考ができる。そのために、自ら学ぶ意欲とリサーチマインドを持ち、生涯に渡って学修する基本的能力を有する。

(7) 多様なケア環境・地域特性と支援チーム体制・協働

対象者の文化的背景、地域特性を考慮した支援チーム構築のため、医療・保健・福祉に関わる人々の役割を認識・理解し、チーム構成員として看護職同士・多職

種・地域住民と協働・連携することができる。

(8) ふくい看護力

ふくいの風土、医療・保健・福祉の実情、社会的ニーズを踏まえて、ふくいに暮らす生活者の視点に立ち、ふくいの健康課題、へき地での医療課題に対応可能な看護を実践できる。また、学生間で指導・相談対応ができる。

各アウトカム達成に必要な能力をコンピテンシー大領域として定め、拡大領域のもとにさらに具体的な能力としてコンピテンシー小領域を設定しています。

コンピテンシー小領域、アウトカムとコンピテンシーの対応は、別表「看護学科アウトカム・コンピテンシー対応表」に示します。

(別表) 看護学科アウトカム・コンピテンシー対応表

アウトカム1 医療人としての態度		
生命と人間の尊重を第一義とする倫理観・責任感と、良識ある人間性を有し、医療・保健・福祉チームの構成員として、共感力、多様性とコミュニケーション力を備えた対象者中心の看護を実践できる。		
コンピテンシー(1) 人間性の形成とコミュニケーション		
対象者中心の看護を展開するため、人間性の基盤となる教養的知識を有し、共感と多様性に基づく人間関係の構築、適切なコミュニケーションを実践できる。		
①	一般教養	人間や社会、科学、文化に関する教養的知識を有し、豊かな人間性の形成に努めることができる。
②	共感力	人の行動と心理の基本を理解し、相手の立場に立って考え、話を聴き、尊重と思いやりの心を持って、他者に共感できる。
③	コミュニケーション力	コミュニケーションの基本を理解し、対象者、その関係者と信頼関係を築き、コミュニケーションを実践できる。
④	プレゼンテーション力	修得した知識や情報、自己の意見を明確に伝え、質問に的確に対応できる。
⑤	英語力	コミュニケーションに必要な基礎的英語力を持つ。
コンピテンシー(2) 全人的理解とプロフェッショナリズム		
対象となる人及び集団の健康、生活、環境を包括的に理解し、医療・保健・福祉における高度専門職業人としての価値観と責任感を有し、礼節ある態度・良識と、自己管理能力をもって行動できる。		
①	全人的対象理解	人間、生活、健康、環境及び各々の関連を踏まえ、対象者をアセスメントできる。
②	多様性	対象者とその関係者の心理・社会・文化的背景と価値観を理解し、多様性を受け入れることができる。
③	自己管理	自己の生活を整え、健康を管理できる。
④	課題対応	自ら知識や情報を修得し、それをもとに課題の抽出、目標設定、解決ができる。
⑤	礼儀とマナー	適切な身だしなみや言動、社会のルールやマナー、常識に従って、礼節ある態度・行動をとることができる。
⑥	使命感	看護職として使命感を持ち、責任感を持って行動できる。
⑦	看護の法的基盤	関係法規を理解し、看護における法的責任・規範を遵守できる。
コンピテンシー(3) 看護倫理とヒューマンケア		
生命と人間の尊重を第一義とする倫理観を持ち、人々の尊厳・権利擁護を考慮し、対象者の意思決定に基づく看護を、敬意をもって実践できる。		
①	倫理観	看護における倫理的問題を理解し、倫理的原則に基づいて行

		動できる。
②	尊厳・権利擁護	対象者の尊厳と権利を擁護するための援助的人間関係を形成できる。
③	説明責任	対象者に看護行為について適切に説明し、同意を得ることができる。
④	意思決定支援	対象者の価値観を尊重し、意思決定を支援できる。

アウトカム2 医療人としての知識・技能

医療・保健・福祉分野における高度専門職業人として、看護学及び関連領域の知識と技能を応用して、科学的根拠に基づいた適切なヒューマンケアを実践できるとともに、日々進歩する医学・看護学的知識・技能を、生涯に渡って学修することができる。

コンピテンシー（４） 看護学及び関連領域の知識と根拠に基づいた看護実践

看護学及び関連領域の知識に基づいた看護技術を用いて、身体的、心理・社会的安楽をもたらす、効果的かつ安全な看護を実践できる。

①	対象理解の基礎科学	自然科学・行動科学・社会科学の知識を修得し、対象者理解のために応用できる。
②	看護実践の専門基礎科学	主要な健康障害について、病態と回復過程、診断に用いる検査・治療に関する看護実践を説明できる。
③	看護技術	基本的看護技術を適切に実践できる。
④	看護過程の展開	対象者の生活歴、病歴及び経験や意向に沿ったニーズを正確に把握し、対象者を多面的にアセスメントできる。根拠に基づき適切な看護計画を立案し、目標達成に向け看護を実践できる。
⑤	看護の質と安全	医療安全の知識を持ち、対象者及び医療者の安全・安楽を考慮し、対象者の Quality Of Life 向上をもたらす看護を実践できる。

コンピテンシー（５） 特定の健康課題に対応する看護実践

看護の社会的役割を理解し、対象者のライフステージ、健康レベル、特定の健康課題に対応した看護を実践できる。

①	ライフステージ	発達段階・ライフステージに応じた看護を実践できる。
②	健康レベル	健康生活の保持と健康障害の予防に貢献できる。また、急激な健康破綻と回復、慢性疾患及び慢性的な健康課題、エンドオブライフ期に応じた看護を実践できる。
③	在宅看護	地域社会のニーズに対応した在宅看護が実践できる。

コンピテンシー（６） 科学的思考と生涯にわたる看護の探求・研鑽

看護学研究の意義を理解し、科学的根拠に基づいた看護実践のため、情報の収集と評価のための論理的・批判的思考ができる。そのために、自ら学ぶ意欲とリサーチマインドを持ち、生涯に渡って学修する基本的能力を有する。

①	科学的研究	科学的研究の理論・方法論を理解し、科学的根拠に基づく論理的・批判的思考ができる。
②	科学的探究心	看護における課題対応のための科学的な探究心を持つ。
③	生涯学修	日々進歩する看護学的知識・技能を、生涯に渡って学修する基本的能力を有する。

アウトカム3 医療人としての地域性・国際性

地域（特にふくい）の社会的ニーズを踏まえた地域医療・ケアを実践できるとともに、グローバルな視点に立ってふくいの地域医療に貢献できる。		
コンピテンシー（7） 多様なケア環境・地域特性と支援チーム体制・協働		
対象者の文化的背景、地域特性を考慮した支援チーム構築のため、医療・保健・福祉に関わる人々の役割を認識・理解し、チーム構成員として看護職同士・多職種・地域住民と協働・連携することができる。		
①	チーム医療	医療チームの構成員として、メンバーと協調性を持って良好な人間関係・チームワークを築くことができる。
②	多職種連携	医療・保健・福祉チームに関わる各職種の役割と専門性を理解し、互いに尊重できる。
③	地域包括ケア	地域ケア構築の必要性と地域包括ケアにおける看護の役割を理解し、地域住民と連携し協働できる関係を構築できる。
④	グローバルな視点	異文化・異社会に関心を持ち、グローバルな視点で看護を実践できる。
コンピテンシー（8） ふくい看護力		
ふくいの風土、医療・保健・福祉の実情、社会的ニーズを踏まえて、ふくいに暮らす生活者の視点に立ち、ふくいの健康課題、へき地での医療課題に対応可能な看護を実践できる。また、学生間で指導・相談対応ができる。		
①	ふくいの医療・保健・福祉	ふくいの医療・保健・福祉の現状と課題を把握し、説明できる。
②	へき地医療	へき地の地域特性に応じた看護実践ができる。
③	指導力・相談対応力	学生間で看護学の知識・技能・態度に渡る指導・相談対応ができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：「カリキュラム・ポリシー」 https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/4-2_cp_dp_med.pdf ）		
<p>（概要）</p> <p>○医学科</p> <p>医学部医学科では、理念・教育目的・人材育成目標に基づき、卒業時に達成する学修成果をアウトカムとして掲げ、それらを達成するのに必要な能力をコンピテンシーとして設定しています。コンピテンシーを修得するために必要な体系的な教育課程を編成・実施します。</p> <p>具体的な教育課程の編成・実施は以下のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本邦における医学教育の指針である「医学教育モデル・コア・カリキュラム」に準拠します。 2. 学生の能動的学修を促すために自学・自修の機会を十分に取り入れたカリキュラムを編成します。 3. 医療人として適切な倫理観、共感性、コミュニケーション能力、生涯学習への意欲などのメディカル・プロフェッショナリズムを涵養するカリキュラムを編成します。 4. 本学の共通・教養教育の理念に基づき、医療人としてふさわしい良識・教養を養うための共通教育科目を編成します。 5. 基礎医学および臨床医学を関連づけて学習できる統合型科目を編成します。 6. 研究マインドを涵養するために、医科学研究研修として基礎医学の現場を体験する機会を設けます。 7. 臨床実習（クリニカルクラークシップ）は、各診療科での診療参加型実習を編成し、担当患者の診察・臨床推論・診療記録を行います。 		

8. 地域医療及び医療の国際化に貢献するための基本を修得するカリキュラムを編成します。
9. 各科目は、予め定められた評価方法に基づき、厳格に成績評価を行います。
10. 本学の医学教育をより良いものとしていくため、医学教育分野別評価基準等に基づいて、カリキュラムの評価と検証を行い、継続的に改善します。

○看護学科

医学部看護学科では、理念・教育目的・人材育成目標に基づき、卒業時に達成する学修成果を「アウトカム」として掲げ、それらを達成するのに必要な能力を「コンピテンシー」として設定しています。コンピテンシーを修得するために必要な体系的な教育課程を編成・実施します。

具体的な教育課程の編成・実施は以下のとおりです。

1. 本邦における看護学教育の指針である「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」、「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」、「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 看護学分野」及び「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」を参考に独自のカリキュラムを編成します。
2. 本学の共通・教養教育の理念に基づき、医療人としてふさわしい良識・教養を養うための共通教育科目を編成します。
3. 看護のプロフェッショナル（高度専門職業人）として倫理的であるために必要な能力と、生涯にわたり自発的にキャリア開発を継続する基本的能力を涵養するカリキュラムを編成します。
4. 専門基礎科目と専門科目を関連づけて学習できるようにカリキュラムを編成します。
5. 自ら学ぶ意欲とリサーチマインドを涵養するために、1年次から4年次まで看護学研究を体験する機会を設けます。
6. 臨地実習は、各看護学領域において対象者を多面的にアセスメントし、科学的根拠に基づいた看護計画を立案・実践できる実習とします。
7. グローカルな視点で地域社会のニーズに対応できるよう、1年次から4年次まで発展的に学ぶカリキュラムを編成します。
8. 看護師国家試験受験資格に加えて、保健師／助産師国家試験受験資格（選択制）を満たす統合カリキュラムを編成します。
9. 各科目は、予め定められた評価方法に基づき、厳格に成績評価を行います。
10. 本学の看護学教育をより良いものとしていくため、カリキュラムの評価と検証を行い、継続的に改善します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：「アドミッション・ポリシー」
https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/4-2_ap_med.pdf）

（概要）

【求める学生像】

○医学科

- ① 医師となるにふさわしい豊かな人間性、周囲との協調性、責任感を有する人
- ② 奉仕の精神を持ち、人を思いやり、尊重することのできる人
- ③ 医学教育内容を十分理解するために必要な幅広い基礎学力と応用能力に富み、自ら学び続ける学修意欲のある人
- ④ 医学・医療を通じて地域社会や国際社会に貢献しようとする強い情熱と意欲を持つ人
- ⑤ 地域を愛し、医師として地域医療に貢献することを望む人

⑥ 医学・生命科学に強い関心をもち医学研究者になることを望む人

○看護学科

- ① 看護に関心を持ち、将来看護職として、地域医療に貢献したいと考える人
- ② 倫理的感性を有し、人間の尊厳と権利を尊重することができる人
- ③ グローバル化が進展する社会に関心をもつことができる人
- ④ 基礎学力の上にならば、人と地域社会に関心をもって学習に臨める人
- ⑤ 協調性がありコミュニケーション能力のある人
- ⑥ 誠実な心を持ち、主体的で意欲のある人

【入学者選抜の基本方針】

○医学科

様々な資質・背景を持つ多様な人に広く門戸を開くため、次のような選抜方法を行っています。全ての試験に面接試験を課し、医師としての資質・適性・将来性を判断することにより、「求める学生像」に相応しい人の選抜に努めています。

① 一般入試（前期日程・後期日程）

高等学校卒業者及びそれに準ずる学力を持った者に対し、大学入試センター試験、個別学力検査及び面接の成績によって選抜を行います。大学入試センター試験に加え、個別学力検査を課し、医学を学び生かす基礎学力や科学的、論理的思考力を評価します。

② 特別入試（推薦入試Ⅱ：全国枠）

学習成績や人格に優れた者とした高等学校長の推薦する高等学校卒業見込み者及び1年前に高等学校を卒業した者に対し、書類審査、大学入試センター試験及び面接の成績によって選抜を行います。大学入試センター試験の成績で医学を学び生かす基礎学力や科学的、論理的思考力を評価すると共に、面接と書類審査によって「求める学生像」に相応しい人の選抜を行います。

③ 特別入試（推薦入試Ⅱ：地域枠）

学習成績や人格に優れ、福井県内において医療に従事する強い意思を有し、かつ高等学校長の推薦する福井県内の高等学校卒業見込み者及び1年前に高等学校を卒業した者等に対し、書類審査、大学入試センター試験及び面接の成績によって選抜を行います。大学入試センター試験の成績では医学を学び生かす基礎学力や科学的、論理的思考力を評価すると共に、面接と書類審査では福井県内の医療に従事する強い意思を評価します。

④ 特別入試（推薦入試Ⅱ：福井健康推進枠）

学習成績や人格に優れ、福井県内において医療に従事する強い意思を有し、かつ高等学校長の推薦する高等学校卒業見込み者及び1年前に高等学校を卒業した者に対し、書類審査、大学入試センター試験及び面接の成績によって選抜を行います。大学入試センター試験の成績では医学を学び生かす基礎学力や科学的、論理的思考力を評価すると共に、面接と書類審査では福井県内の医療に従事する強い意思を評価します。

⑤ 学士編入学

大学卒業後及びそれに準ずる学力を持った者に対し、書類審査、個別学力検査及び面接の成績によって選抜を行います。個別学力検査では理系大学教養課程修了に相当する基礎学力（生命科学関連、英語等）を評価します。面接では学士としての見識と経験、医学を学ぶ目的と強い意欲を判断します。合格者は2年次前期（4月）に編入します。

○看護学科

「求める学生像」にふさわしい者を選抜するため、多様な観点から受験者の学

<p>力や資質を評価します。また、全ての試験に面接を課し、看護を学ぶ意欲・積極性・表現力・協調性・一般的態度を評価することにより、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜に努めています。</p> <p>① 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校卒業者及び同等以上の学力があると認めた者に対し、大学入試センター試験、個別学力検査及び面接並びに調査書の内容を総合して選抜します。</p> <p>大学入試センター試験では高等学校等での教科面における学習達成度を評価します。個別学力検査及び面接では、看護を学ぶための適性を総合的に評価するとともに、調査書により受験者の資質を評価します。</p> <p>② 特別入試（推薦入試Ⅰ） 人物、学力ともに優秀で健康であると高等学校長から推薦された高等学校卒業見込者に対し、個別学力検査及び面接並びに調査書等の内容を総合して選抜します。個別学力検査及び面接では、看護を学ぶための適性を総合的に評価するとともに、調査書により受験者の資質を評価します。</p>
--

<p>学部等名 工学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：「工学部規程・教育研究上の目的」 https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/3-3_purpose_eng.pdf）</p>
<p>（概要）</p> <p>第1条の2 学則第2条第3項に規定する、工学部における人材の養成に関する目的 その他の教育研究上の目的については、別に定める。 （「福井大学工学部規程」から抜粋）</p> <p>「福井大学学則(平成16年福大学則第1号)第2条第3項の規定に基づく工学部における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」（平成28年4月1日第二教授会承認）</p> <p>工学部では、グローバルな視点で夢を描き、それを形にできる技術者を「グローバルイマジニア」と呼び、人材育成の基本コンセプトとしつつ、安全で安心な社会の創造のための基礎的な知識・教養、幅広い専門知識に裏打ちされた高度な専門能力に加えて、歴史や文化、習慣の違いを超えて世界の人々と協働し、倫理観を持ち主体的に行動できる総合的な能力を持つ技術者・研究者を養成する。また、工学部では、安全で安心な社会の創造に寄与することを目的に、広く工学全般にわたって教育研究を行い、その成果を社会に還元する。</p> <p>工学部各学科の目的は、以下のとおりとする。</p> <p>○機械・システム工学科 多種多様な革新的機械・システム技術の創造に貢献し、ものづくりを通して、安全で安心な社会の構築と持続に貢献できる人材を養成する。</p> <p>○電気電子情報工学科 電気工学から発し、歴史とともに拡大・細分化してきた通信工学、半導体工学、計算機工学、情報工学の学問分野を電気系（連続系）と情報系（離散系）で分割した従来の2学科体制を改めて一学科に統合することで、電気系、情報系の学問基礎の体系的な習得と両分野に跨る分野横断的な応用力と実践力を有する人材を養成する。</p> <p>○建築・都市環境工学科 これまでの建築建設工学科を継承、発展させて建築・都市環境工学科とし、</p>

長年にわたり培われてきた建築と土木の専門性に根差しつつも、新たに顕在化しつつある課題すなわち社会基盤施設の維持管理や保全、国土の強靱化、少子高齢化社会への対応、環境調和型の生活空間の構築等に即した教育内容に改善し、安全で安心な社会生活環境の実現に貢献する実践力ある人材を養成する。

○物質・生命化学科

物質の構造や性質，その反応に関わる法則などを探究する「物質化学」，生命現象を化学の視点から解明する「生物化学」，物理法則を基礎として材料を取り扱う「材料工学」に関する専門知識を教育する。さらに，繊維をはじめとする高性能・高機能材料の創製や関連科学技術の開拓，医学・工学の融合分野へのバイオテクノロジーの展開などを通じて身につけたスキルや知恵，高い倫理観を駆使し，人類の健やかな生活と持続可能で豊かな社会の実現に向けて，地域社会から国際社会の様々な分野において活躍できる人材を養成する。

○応用物理学科

工学の幅広い分野に対応できる確固とした理工学の知識・思考方法・応用能力を修得するとともに，総合的な実践力や産業関連知識を自ら学び，課題解決につなげる力，グローバルな行動力，倫理観を身につけた物理を中心とした基礎科学を応用展開できる人材を養成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：「ディプロマ・ポリシー」

https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/4-3_cp_dp_eng.pdf）

（概要）

工学部では以下のような卒業生を社会に送り出します。

1. 基礎的な知識・教養、および専門的知識・能力を有している。
2. 創造力、自己学習力、問題解決能力、およびコミュニケーション能力を有している。
3. 高度専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、幅広い視野をもって社会の発展に貢献できる。

○機械・システム工学科

機械・システム工学科では、以下の要件を満たし、安全で安心な社会および人と環境が調和した社会を創造する革新的なものづくりに貢献できる高度専門技術者を輩出する。

1. 機械工学、ロボティクス、および原子力安全工学に関する専門知識と技術を有している。
2. 専門にとらわれない幅広い知識・教養と異分野コミュニケーション能力を有し、広い視野で協力して未知の問題に取り組むことができる。
3. 高い倫理観と責任感を持って、国際社会において先導的立場で活躍することができる。

○電気電子情報工学科

電気電子情報工学科では以下のような能力を備えた専門技術者になり得る者に学士の学位を授与する。

1. 電気、電子、情報、通信工学に関する体系的な専門知識とその高度な応用力を有する。
2. 実世界の問題について理解し、科学技術の発展と変遷に対応した新しい技術を開発する意欲を有する。
3. 自律的学習力、自己表現力、相互理解力を有する。
4. 高度専門技術者としての社会・組織に対する倫理観および責任感を有する。

○建築・都市環境工学科

以下の知識、能力、資質を備えた者に学士の学位を授与する。

1. 建築・都市環境工学に関わる包括的な専門基礎知識と基礎能力、及び社会の要求を見極めた体系的デザイン力や地球的視野に基づく思考力を有している。
2. 生活空間を構築する技術者としての倫理観、責任感、及び論理的思考力・表現力・課題設定力・計画立案実践力を有している。
3. 生活空間の構築に関わる技術者としての専門知識を備え、それを計画・設計・施工・維持管理などに創造的に応用できる能力を有している。

○物質・生命化学科

物質・生命化学科では、卒業要件に定められた単位を修得し、以下に示す能力・技能を身につけた学生に学位を授与する。

A. 関心・意欲・態度

A-1 【技術者倫理】技術が社会や環境に及ぼす影響や効果を説明でき、持続可能な社会の実現を目指す意欲を有している。

A-2 【自主学修】自主的・継続的に学習することができる。

A-3 【協調性】他者と協力して問題解決に取り組むことができる。

B. 思考・判断

B-1 【多面的思考】グローバルな視点から多面的に物事を考えることができる。

B-2 【計画性】計画的に仕事を進め、まとめることができる。

C. 技能・表現

C-1 【デザイン能力】科学と技術を活用して社会の要求を解決するための工学的デザインを提案できる。

C-2 【コミュニケーション】日本語で論理的に記述し、的確に発表し、討議を行うことができる。また、英語で基礎的なコミュニケーションを行うことができる。

D. 知識・理解

D-1 【工学基礎】数学、自然科学に関する知識を持ち、応用することができる。

D-2 【専門力】物質・生命化学に関する知識を持ち、問題解決に応用することができる。

○応用物理学科

下記の箇条に示したような、物理学を中心とした理工学の基礎知識を有し先端分野におけるものづくりへの応用力を身につけた者に学士の学位を授与する。

1. 物理学を中心とした理工学の確固たる基礎知識と、その応用力を身につけている。
2. 基礎知識に基づいてものごとの本質を捉えた上でその知見から総合的に発想し、未知の技術革新に対応することができる。
3. 新しい知識・技術を自ら学ぶことや、計画的に課題の解決に取り組むことができる。
4. 技術者としての倫理観を持ち、グローバルな視点に立って問題を多角的に把握することができる。
5. 他者とコミュニケーションをとることや、協力してプロジェクトを進めることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：「カリキュラム・ポリシー」
https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/4-3_cp_dp_eng.pdf）

（概要）

専門的知識・能力に加え、工学で求められる総合力と資質を有する高度専門技術者を育成するため、以下の方針に沿って教育を行います。

1. 工学の基礎となる数学や自然科学にかかわる知識を身に付けさせる。
2. 工学の各分野における専門的知識・能力を身に付けさせる。
3. 多様な学問分野にかかわる幅広い視野を獲得させる。
4. 創造力、自己学習力、問題解決能力、およびコミュニケーション能力を併せた総合力を身に付けさせる。

5. 技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解させる。

○機械・システム工学科

機械・システム工学科では、専門的知識・能力に加え、幅広い知識と異分野コミュニケーション能力を有する高度専門技術者を育成するため、以下の方針に沿って教育を行う。

1. 本学科の基礎となる数学や物理、その他自然科学に関わる知識を身に付けさせる。
2. 本学科の各コース（機械工学、ロボティクス、原子力安全工学）における専門的知識・能力を身に付けさせる。また他コースの基礎的な専門知識も修得させ、幅広い知識と柔軟な思考力を養わせる。
3. 安全で安心な社会の創造や革新的なものづくりに関わる多様な分野の幅広い知見を獲得させる。
4. 創造力、自己学習力、問題解決能力、およびコミュニケーション能力を併せた総合力を身に付けさせる。
5. 国際的な視点から、高度専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解させる。

○電気電子情報工学科

電気電子情報工学分野の急速な発展に対応して社会で十分に活躍するためには、基礎学力を身に付けるとともに、さらに意欲的に専門分野の勉学を行うことが必要である。本学科の教育課程は、広範囲にわたる電気電子情報工学分野の基礎を確実に身につけさせ、さらに、広い教養と深い洞察力を持たせることを編成方針とし、その方針のもとに講義、演習、実験及びゼミナールが体系的に実施されるように構成されている。電気電子情報工学科におけるカリキュラムの学習・教育目標は次の(A)から(I)に分類される。

- A. 技術を社会及び自然との関わりなど、地球的視点で捉えることができる能力
- B. 数学、物理学に関する基礎知識を有し、それらを電気電子情報工学に関する専門技術分野に応用できる能力
- C. 電気電子情報工学の主要分野（物性・デバイス工学、エネルギー工学、システム工学、通信工学、情報工学）に関する専門知識を有し、それらを諸問題の解決に応用できる能力
- D. 電気系技術者としてコンピュータやネットワークの実践的な取り扱いや基礎的なプログラミングができる能力、あるいは、情報系技術者としてハードウェアおよびソフトウェアの両面から情報システムを設計する能力
- E. 自主的かつ継続的な学習力、自己表現力、および相互理解力など技術者として必要な資質
- F. 社会の要求に対して、問題を整理・分析し、専門知識と技能を用いて解決するための能力
- G. 技術者として社会・組織に対する倫理と責任を自覚し研鑽できる能力
- H. 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
- I. チームで仕事をするための能力

○建築・都市環境工学科

建築学と土木工学の特徴を活かしながら両者を有機的に結びつけ、人文・社会科学的な知恵も含めて、環境を総合的にとらえることができる技術者を育成するため、以下の方針で教育課程を構成する。

1. 建築・都市環境工学に関わる包括的な専門基礎知識と基礎能力を身につけさせる。
2. 社会の要求を見極めた体系的デザイン力や地球的視野に基づく思考力を身につけさせる。
3. 生活空間を構築する技術者としての倫理観、責任感を身につけさせる。
4. 生活空間の構築に関わる技術者としての論理的思考力・表現力・課題設定力・計画

立案実践力を身につけさせる。

5. 生活空間の構築に関わる技術者としての専門知識を備え、それを計画・設計・施工・維持管理などに創造的に応用できる能力を身につけさせる。

○物質・生命化学科

物質・生命化学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を着実に育成するカリキュラムを作成し、継続的な改善に努める。

- ・卒業研究を開始するまでに個人の志向に応じた工学の基礎的素養を身につけるために「工学基礎を学ぶ」科目群を設置する。(D-1)
- ・専門力の基礎を身につけるために、1、2年次を中心に「物質・生命化学の基礎を学ぶ」科目群を設置する。(D-2)
- ・専門的能力を効率よく身につけるために、2年次終了後、3つのコース（繊維・機能性材料工学コース、物質化学コース、バイオ・応用医工学コース）を設置する。(A～D)
- ・2、3年次を中心に各コースに関する「専門知識を学ぶ」科目群、及び「コースを越えて幅広く専門知識を学ぶ」科目群を設置する。(D-2)
- ・「実験の手法を学ぶ」科目群を1年次から3年次までバランス良く設置する。(A～D)
- ・「産業実践力を身に付ける」科目群の基礎的科目を1、2年次に必修科目として設置するとともに、個性に応じた実践力を育む選択科目をバランス良く設置する。(A～D)
- ・グローバルに活躍できる人材育成を行うために、「国際教養力を高める」科目群を設置する。(A～C)
- ・英語によるコミュニケーション能力を育成するため、1、2年次に基礎的英語科目を必修とし、3、4年次に応用能力を培う英語科目を設置する。(C-2)
- ・学部教育の総仕上げとして、教育課程の最終段階に卒業研究を設置する。(A～D)

○応用物理学科

物理学に基本を置く教育体系により、理工学の確固たる知識を身につけさせ、未知の技術革新にも対応できる高度専門技術者を育成するため、以下の方針に沿って教育を行う。

1. 物理学を中心とした理工学の基礎知識の習得と応用力の育成
 - I. 物理学および応用物理学に関連する基礎知識を習得させる。
 - II. 数学・化学・計算機科学に関する基礎知識を習得させる。
 - III. これらの基礎知識を組み合わせ、先端技術分野における問題設定・解決に応用できる能力を育成する。
2. 基礎知識に基づいてものごとの本質を捉えた上で総合的に発想するデザイン能力の育成
 - I. 必ずしも解が一つでない課題に対して、物理学を中心とした理工学の知識を駆使し、ものごとの本質を把握する能力を育成する。
 - II. 総合的な発想により制約条件下において解を見出し、文章、図表、数式、プログラム等で表現する能力を育成する。
3. 計画性と自己学習能力の育成
 - I. 課題を計画的に進め、必要に応じて計画を修正しながら、期限内にまとめる能力を育成する。
 - II. 自主的・継続的に学習し、文献等を調べながら、自ら知識を獲得できる能力を育成する。
4. 技術者としての倫理観、教養に裏打ちされた多角的なものの見方の育成
 - I. 物理学が社会や自然におよぼす影響を理解し、技術者が果たすべき役割と責任を自覚させる。
 - II. 文化の多様性、地球環境などの観点から問題を多角的に捉え、豊かで安全・安

心な社会の構築に寄与するために必要な教養と思考力を育成する。

5. コミュニケーション能力、 チームワーク力の育成

- I. 情報や意見を、 言葉や資料を用いて正確に伝えるとともに、 他者の意見を理解する能力を育成する。
- II. 英語で書かれた技術文書を読むことや、 英語で意思疎通することができる能力を育成する。
- III. チームの一員として、 他者に働きかけながら、 物事をまとめ上げていく能力を育成する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：「アドミッション・ポリシー」

https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/4-3_ap_eng.pdf)

(概要)

【求める学生像】

○学部共通

1. グローバルイマジニアとして地域社会や国際社会に貢献する強い意欲を有する人
※グローバルイマジニア：グローバルな視点で夢を描き、それを形にできる技術者
2. 高等学校教育またはそれに準ずる教育課程において、理工学分野の基礎となる知識及び実践力を習得している人
3. 正確な文書読解，論理的な記述，適切な表現などの基本的な言語運用能力を有する人
4. 豊かな人間性，周囲との協調性，奉仕の精神を有する人

○機械・システム工学科

「人と地球を支える機械・システム技術にイノベーションを」

1. 機械・システムエンジニアとして、ものづくりにより社会に貢献する意欲を有する人
2. 機械・システム工学分野の基礎となる数学や物理の知識を習得している人
3. 正確な文書読解，正確な言語表現などの基本的な言語運用能力を有する人
4. 柔軟な発想力，周囲との協調性，自ら考え・行動する主体性を有する人

○電気電子情報工学科

「電気・電子・情報分野の伝承と創造は君の手で」

1. 電気，電子，コンピュータを学ぶための数学や物理の基礎学力を有する人
2. 論理的思考力を問題解決に活かすことができる人
3. チャレンジ精神を持って地域社会や国際社会に将来貢献する強い意欲を有する人

○建築・都市環境工学科

「建築・都市・社会基盤をデザインし，豊かな地域・環境を創造する」

1. 建築・土木技術者として地域社会・環境の持続的発展に貢献する強い意志を有する人
2. 高等学校教育またはそれに準ずる教育課程において，建築・土木分野を学ぶ基礎となる知識及び実践力を修得している人
3. 正確な文章読解，理論的な記述，図解を交えた適切な表現などの言語運用能力を有する人
4. 豊かな人間性，周囲との協調性をもって課題解決に向けて考え行動できる人

○物質・生命化学科

「創造する化学にチャレンジ！」

1. 化学・物理・生物のうち2科目以上の基礎学力を有する人

2. 地域社会や国際社会に貢献する意欲を有し、周囲と協調して主体的に行動できる人
3. 日常の物事や現象を論理的に思考でき、それらを正確に記述・表現できる人

○応用物理学科

「先端科学技術を支える物理学の世界へ」

1. 物理や数学に基づいて、ものごとを基本に戻って考える能力を有する人
2. 先端科学技術分野への強い興味を有し、将来、グローバルイマジニアとして活躍する意欲を有する人
3. ものづくりや実験の基礎となる知識・技能を有する人

【入学者選抜の基本方針】

○一般入試（前期日程）

機械・システム工学科

電気電子情報工学科

応用物理学科

大学入試センター試験（5教科7科目）により基礎的学力を総合的に判定する。さらに個別学力試験（数学、物理）により、数学と物理に関する標準的な知識と理解に基づいて論理的な思考を展開し、それを記述する能力を判定する。

建築・都市環境工学科

物質・生命化学科

大学入試センター試験（5教科7科目）により基礎的学力を総合的に判定する。さらに個別学力試験（数学、物理又は化学）により、数学と物理又は化学に関する標準的な知識と理解に基づいて論理的な思考を展開し、それを記述する能力を判定する。

○一般入試（後期日程）

機械・システム工学科

電気電子情報工学

建築・都市環境工学科

応用物理学科

大学入試センター試験（5教科7科目）により基礎的学力を総合的に判定する。さらに個別学力試験（数学）により、数学に関する標準的な知識と理解に基づいて論理的な思考を展開し、それを記述する能力を判定する。

物質・生命化学科

大学入試センター試験（5教科7科目）により基礎的学力を総合的に判定し、さらに面接（口述試験を含む）により、学習意欲、チャレンジ精神、論理的思考力等を判定する。

○推薦入試Ⅰ

電気電子情報工学科

大学入試センター試験を免除し、推薦書、調査書、志願理由書及び面接（記述試験を含む）の結果を総合して学力判定を行う。

建築・都市環境工学科（高大接続型入試）

大学入試センター試験を免除し、推薦書、調査書、志願理由書、面接（口述試験を含む）及びプレゼンテーションの結果を総合して学力判定を行う。

○AO入試Ⅱ

全学科共通

第1次選考では書類審査により、文章力や自己アピール力等の判定及び提出された調査書等に基づく基礎的学力の判定を行う。最終選考では、大学入試センター試験により基礎的学力を総合的に判定し、さらに面接（口述試験を

<p>含む)により、目的意識・意欲、表現力等の判定及び理数系科目の学力判定を行う。</p> <p>○私費外国人留学生入試 全学科共通 日本留学試験及び TOEFL の成績、並びに、面接、口述試験（簡単な筆記試験を行う場合もある。）及び出願書類により、日本語能力と理数系科目の学力判定を行う。</p> <p>○編入学（推薦） 全学科共通 面接（口述試験を含む）及び出願書類により理数系科目の学力、学習意欲、チャレンジ精神等を判定する。</p> <p>○編入学（一般） 機械・システム工学科 学力検査、面接（口述試験を含む）及び出願書類により、理数系科目の学力、学習意欲、チャレンジ精神等を判定する。</p> <p>建築・都市環境工学科 学力検査、面接（口述試験を含む）及び出願書類により、理数系科目の学力、学習意欲、チャレンジ精神等を判定する。</p> <p>電気電子情報工学科 学力検査、面接（口述試験又は必要に応じて口頭試問を行う）及び出願書類により、理数系科目の学力、学習意欲、チャレンジ精神等を判定する。</p> <p>物質・生命化学科 応用物理学科 面接（口述試験を含む）及び出願書類により、理数系科目の学力、学習意欲、チャレンジ精神等を判定する。</p>
--

<p>学部等名 国際地域学部</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：「国際地域学部規程・教育研究上の目的」 https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/3-4_purpose_glo.pdf）</p> <p>（概要）</p> <p>（教育研究上の目的）</p> <p>第2条 本学部は、地域の創生を担い、グローバル化した社会の発展に寄与できる人材を育成するために、以下の能力を修得できる教育研究を展開することを目的とする。</p> <p>(1) 現代の地域社会や国際社会の抱えている諸課題を理解、分析するために人文社会科学分野に関わる専門性と学際性に裏付けられた幅広い学識と自然科学分野の基礎的知識</p> <p>(2) 地域や社会の抱える現実の課題についての探究と解決に取り組むことのできる能力</p> <p>(3) グローバル化が進行する社会・地域の中で、広く世界を知り、多文化の中で主体的に生きていけるために必要な英語能力、多文化理解能力 （「福井大学国際地域学部規程」から抜粋）</p> <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：「ディプロマ・ポリシー」 https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/4-4_cp_dp_glo.pdf）</p>

<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 幅広い教養と専門的な知識・能力を有している。 地域や国際社会の抱える課題と発展可能性を探り、リサーチすることができ、その問題の解決と可能性の実現を通して、グローバル社会の発展と地域創生に貢献することができる。 グローバル化する社会において求められる国際的な視野や批判的思考力を身につけ、英語を中心とする外国語能力も含めた多文化共生を支える異文化理解とコミュニケーション能力をもち、行政・企業・地域等で対応し、活躍することができる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：「カリキュラム・ポリシー」 https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/4-4_cp_dp_glo.pdf）</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 現代の地域社会や国際社会の抱えている諸課題を理解、分析するために政治学・経済学・経営学・社会学、歴史学、宗教、哲学、文化研究をはじめとする人文社会科学分野に関わる幅広い学識と自然科学分野の基礎的知識を身につける。 地域や社会の抱える現実の課題について、専門的な学習と併せ、地域や企業等との参加・協働を通して、探究と解決に取り組むことのできる能力を身につける。また、そのために必要な、分析ツールとしての統計、データ処理、調査法等で求められる能力を身につける。 グローバル化が進行する社会・地域の中で、広く世界を知り、多文化の中で主体的に生きていけるために必要な多文化共生を支える異文化理解力とコミュニケーション能力を身につける。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：「アドミッション・ポリシー」 https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/4-4_ap_glo.pdf）</p>
<p>(概要)</p> <p>【求める学生像】</p> <ol style="list-style-type: none"> グローバル化によって地域から国際社会にまで起こっている複雑な諸問題について関心をもち、それについての探求を深め課題解決に向けて主体的に取り組もうとする意欲のある者 課題探究と解決に向けて、必要な専門的な分野の学習を学ぶ意欲をもつとともに、問題解決の方法や他の人と協働で実践的に取り組んでいくことに積極性のある者 世界共通語的性格をもつ英語はもちろん、多文化的なグローバル社会の中で活躍できるコミュニケーション能力を身につけることに意欲をもち、他の人との対話を通して、活動を広げ深めようとする者 <p>【入学者選抜の基本方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 一般入試（前期日程） 幅広い基礎学力を総合的に判定するために、大学入試センター試験を課します。さらに、教科・科目の学力を重視した学力検査を実施し、専門分野の学習に必要な知識・能力を評価します。 ② 一般入試（後期日程） 幅広い基礎学力を総合的に判定するために、大学入試センター試験を課します。さらに、小論文を課し、国際・地域社会に関わる課題を提示して論述させ、思考力・分析力・表現力を総合的に評価します。また、面接を実施し、国際・地

<p>域の諸課題に取り組む意欲・資質・適性等を評価します。</p> <p>③ 推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す） 幅広い基礎学力を総合的に判定するために、大学入試センター試験を課します。さらに、面接を実施し、国際・地域社会の諸課題に取り組む意欲・資質・適性等を評価します。</p> <p>④ AO入試Ⅰ（高大接続型入試）（大学入試センター試験を課さない） 大学入試センター試験は免除し、第1次選考では、高校での取り組みやその成果に関するレポート等により、取り組みの内容と文章力及び自己アピール力等を判定します。さらに、提出された調査書等に基づき基礎的学力の判定を行います。最終選考では、取り組みに対するプレゼンテーション及び面接により、国際・地域社会の諸課題に取り組む意欲・資質・適性等を評価します。</p> <p>⑤ 私費外国人留学生 小論文で、日本語の理解力と表現力を、また、面接によって日本で学ぼうとする意欲・資質・適性等を測ります。これらに日本留学試験とTOEFLの成績を加えて総合的に評価します。</p> <p>⑥ 私費外国人留学生（外国人特別枠入試） ※外国人留学生として新たに留学する者 TOEFL(iBT)、IELTSのいずれかの成績、日本語能力試験の成績、出願書類（志願理由書、推薦書、成績証明書）及びインターネットを利用した面接に基づき、総合的に評価します。</p>
--

<p>学部等名 全学共通</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/4-0_cp_dp_whole.pdf）</p> <p>（概要）</p> <p>（教育研究上の目的は学部毎に策定）</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：「ディプロマ・ポリシー」 https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/4-0_cp_dp_whole.pdf）</p> <p>（概要）</p> <p>福井大学は、所定の年限在籍し、各学部の体系的な教育課程により学業を修め、地域、国及び国際社会に貢献し得る高度専門職業人として備えるべき以下の能力を修得した者に対し、学士の学位を授与します。</p> <p>（1）確かな専門能力に裏打ちされた実践力 （2）実践的な言語運用能力を備えたコミュニケーション力 （3）地域から世界までを視野に入れて自ら行動できる人間力</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：「カリキュラム・ポリシー」 https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/4-0_cp_dp_whole.pdf）</p> <p>（概要）</p> <p>福井大学は、学位授与の方針で示す能力を確実に修得させるため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。</p> <p>1. 体系的な教育課程 国際通用性のある教育課程を編成し、学位の質を確保します。職業人の素養となる芯の通った学びと学生の関心に基づく多様性のある学びを両立するため、学内外</p>

<p>の教育資源を有効に活用した必修科目・選択必修科目・選択科目を配置します。また、成長の道筋を明瞭にするため、意図の明確な科目区分を構成します。</p> <p>2. 効果的な教育方法 それぞれの知識や技能の修得に適した授業形態を採用するとともに、他者と協働しながら主体的に課題解決に取り組む学習活動をバランスよく実施します。事前・事後学習を支援し、学修時間の確保にともなう単位の実質化に取り組みます。</p> <p>3. 厳格な学修評価 明確な到達目標と透明性のある評価方法に基づき、各科目の成績評価を行います。カリキュラム全体を通じた達成度の評価についても、予め定められた基準を用いて多面的かつ厳格な評価を行います。</p> <p>4. 改善のための教育評価 本学で実施する教育をより良いものとしていくため、教育の内容・方法・成果に対する組織的な評価と検証を行い、継続的な改善に努めます。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：「アドミッション・ポリシー」 https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/4-0_ap_whole.pdf）</p>
<p>（概要）</p> <p>福井大学は、学術と文化の拠点として、高い倫理観のもと、人々が健やかに暮らせるための科学と技術に関する世界的な水準の教育・研究を推進し、地域、国及び国際社会に貢献し得る人材の育成を理念・目標に掲げています。この理念・目標を達成するため、本学では以下の能力を有する人を入学生として受け入れます。</p> <p>【求める学生像】</p> <p>(1) 高度専門職業人として地域社会や国際社会に貢献する強い意欲を有する人 (2) 高等学校教育またはそれに準ずる教育課程において、専門分野の基礎となる知識・技能を修得している人 (3) 正確な文章読解，論理的な記述，適切な表現などの基本的な言語運用能力を有する人 (4) 豊かな人間性，周囲との協調性，奉仕の精神を有する人</p> <p>【入学選抜の基本方針】</p> <p>各学部においては、個々の特性およびアドミッション・ポリシーに応じて以上の観点を適切に選択し、かつ組み合わせられた入学選抜を実施します。そして、各学部が求める能力・適性等を、多様な選抜方法・区分によって、公平かつ多面的・総合的に評価します。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：「福井大学組織図」 https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/chart_201904.pdf</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
教育学部	—	24人	20人	4人	0人	2人	50人
大学院	—	4人	18人	2人	2人	0人	26人

医学部	—	46人	36人	13人	71人	1人	167人
工学部	—	58人	56人	14人	12人	0人	140人
国際地域学部	—	12人	8人	5人	2人	0人	27人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		392人					392人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：「福井大学研究者総覧（教員データベース）」 http://t-profile.ad.u-fukui.ac.jp/search/index.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>高等教育推進センターFD・教育企画部門が中心となって、毎年、全教職員対象のFD・SDシンポジウムを企画・開催している。また、各学部でも各種FD・SDの取組を行っている。最近の全学FD・SDシンポジウムの開催状況は次のとおり。</p> <p>（平成28年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テーマ：「ディープ・アクティブラーニングの導入背景と具体的実践法」 ○講師：大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部講師 <p>（平成29年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テーマ：「学生と教師を繋ぎ、結ぶ、アクティブラーニング型授業のデザイン」 ○講師：金沢大学国際基幹教育院高等教育開発・支援部門准教授 <p>（平成30年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テーマ：「今、大学に求められる「学修成果の可視化」「内部質保証」とは」 ○講師：京都大学高等教育研究開発推進センター准教授 ○テーマ：「受験生に配慮した公平な入試を実施するために」 ○講師：佐賀大学アドミッションセンター教授 <p>なお、平成30年度のテーマ「今、大学に求められる「学修成果の可視化」「内部質保証」とは」について、参加者にアンケートを行ったところ、「学習成果アセスメントの方法について理解が深まった」「内部質保証のために求められている（実施すべき）ことを再確認できた」等、肯定的な意見が95%を占め、取組の成果があがっていることが伺える結果となっている。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
教育地域科学部	-人	-人	-%	-人	20人	-%	-人	-人
教育学部	100人	102人	102.0%	400人	410人	102.5%	0人	0人
国際地域学部	60人	63人	105.0%	240人	251人	104.6%	0人	0人
医学部	170人	172人	101.2%	925人	940人	101.6%	5人	5人
工学部	525人	538人	102.5%	2,180人	2,357人	108.1%	40人	31人
合計	855人	875人	102.3%	3,745人	3,978人	106.2%	45人	36人

(備考) 教育地域科学部は、平成 28 年度から学生募集停止。工学部は、平成 28 年度に 8 学科を 5 学科に再編、再編前の在生を含む。

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
教育地域科学部	162 人 (100%)	16 人 (9.9%)	145 人 (89.5%)	1 人 (0.6%)
医学部	166 人 (100%)	1 人 (0.6%)	53 人 (31.9%)	112 人 (67.5%)
工学部	572 人 (100%)	286 人 (50%)	279 人 (48.8%)	7 人 (1.2%)
合計	900 人 (100%)	303 人 (33.7%)	477 人 (53.0%)	120 人 (13.3%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 主な進学先：福井大学大学院 等 主な就職先：福井県公立学校教員, 福井大学医学部附属病院, 官公庁, 製造業, 建設業 等

(備考)
2017 年度卒業・修了者の全国大学実就職率ランキング (大学通信調査) が発表され、複数学部を有する卒業生 1,000 人以上の国立大学において 11 年連続 1 位を達成した。就職支援の取組としては、キャリア支援課を中心に、学生のニーズや社会の動向に応じて、年間 1,000 回以上の学生への企業説明会を企画・実施し、学生一人ひとりの就職活動状況を絶えず把握するなど、未内定者の就職先が決定するまで地道にきめ細かく、かつ粘り強く支援を行っている。

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
教育地域科学部	166 人 (100%)	149 人 (89.8%)	13 人 (7.8%)	4 人 (2.4%)	0 人 (0%)
医学部	172 人 (100%)	149 人 (86.6%)	16 人 (9.3%)	7 人 (4.1%)	0 人 (0%)
工学部	549 人 (100%)	439 人 (80.0%)	85 人 (15.5%)	25 人 (4.6%)	0 人 (0%)
合計	887 人 (100%)	737 人 (83.1%)	114 人 (12.9%)	36 人 (4.1%)	0 人 (0%)

(備考) 教育地域科学部では、海外での語学研修による留年者が多い。中途退学者は主に、進路変更や就職など。

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
様式第 2 号の 3 の「1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画 (シラバス) を作成し、公表していること」に記載したとおり、授業科目、授業の方法及び内容については、毎年度、学部毎のカリキュラム・ポリシー及び教育課程表に基づき、到達目標、授業内容、授業形式、成績評価の方法・基準等を記載したシラバスを作成し、Web 版シラバスシステムの活用等を通して学

生に周知するとともに、本学ホームページで公表している。

年間の授業日程は、キャンパス毎に作成し、教務学生委員会、教育研究評議会の審議を経て決定している。また、学部・学科毎に、卒業に向けて各学年で履修すべき授業科目を体系化したカリキュラム・ツリーを作成している。これらも、毎学期配付する授業時間割表やオリエンテーション時等、様々な方法・機会を活用して学生に周知するとともに、本学ホームページで公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

1. 学修の成果に係る評価のガイドライン

- (1) 本学では、学修成果を厳格かつ適正に評価するよう、全学共通の「福井大学における多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン」を作成している。(当ガイドラインは、様式第2号の3の「2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること」を参照)
- (2) 担当教員は、当ガイドラインに沿って、学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を授与している。
- (3) 当ガイドラインでは、①シラバスへ「到達目標」及び「評価方法とその割合」を明示すること、②「多面的評価」を実施すること、③「同一科目内における公平性」を担保すること、④「成績の評価、評点、評価内容の基準」、⑤学生からの質問に対する「説明責任」を果たすこと等を明記している。
- (4) 評価に際しては、各授業科目の特性に応じて、学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの様々な適切な方法が活用されている。
- (5) 担当教員は、当ガイドラインに基づきシラバスに記載した「成績評価の方法・基準」により、厳格かつ適正に単位を授与している。
- (6) 学生からの評価結果等に関する問い合わせに対しては、成績評価に用いた答案用紙やレポート、評価表等の証拠書類を提示するなどして丁寧に説明するとともに、学生は十分な納得が得られない場合は異議申し立てを行うことができ、その際は教務関連委員会で適切かつ速やかに対処している。

2. 学修の成果に係る評価の基準

客観的な指標の設定

- (1) 学生の学修成果に係る評価基準等について、全学共通の「福井大学における成績評価基準等に関する規程」を定めている。
- (2) 評価基準等は学生便覧、ガイダンス等により学生に広く周知している。
- (3) 当規程では、①成績評価基準(評価(評語)、G P、評価基準、評価点(100点満点))、②G P Aに係る対象授業科目、③G P Aの算定方法を明記している。
- (4) 本学では、客観的指標としてG P Aを採用している。G P Aの算定方法は当規程(様式第2号の3の「3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること」)を参照。

適切な実施

- (1) 学生には、毎学期、本人のGPAを周知するとともに、助言教員等は当GPAを活用し履修指導を行っている。
- (2) 各学部では、GPAによる成績の分布状況を関連委員会で把握している。
- (3) 工学部では、各学科におけるコース配属の際、GPAを活用している。
- (4) 国際地域学部では、次のような取組を行っている。
 - ・他学部（5段階評価）と異なり、よりきめ細やかな米国型13段階評価を実施している。
 - ・学生全員にGPAが2.0以上になるよう指導している。
 - ・GPA3.5以上等の優秀学生には、卒業時に優等学位の証明書を交付している。
 - ・履修登録単位数の制限（キャップ制）について、GPAが一定以上の者には制限を緩和している。
 - ・留学条件として一定以上のGPAを課している。
- (5) 交換留学派遣先の選考及び海外派遣プログラム奨学金給付者の選考において、GPAを活用している。

3. 卒業の認定に当たっての基準

- (1) 全学共通の卒業の認定方針（ディプロマ・ポリシー）及びそれを踏まえた学部毎のディプロマ・ポリシーを策定し、学生便覧等により学生に周知するとともに、本学ホームページで公表している。（具体的な内容は、様式第2号の3の「4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること」を参照）
- (2) 当ディプロマ・ポリシー並びに本学共通教育履修規程及び各学部規程に規定する卒業に必要な修得単位数等を踏まえ、学生の授業科目及び卒業研究等の履修・単位数修得状況等を示した一覧表に基づき、教務関連委員会で厳正に審査・確認した上で、卒業認定基準を全て満たした学生を教授会における審議を経て合格と判定し、学長が卒業を認定している。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
教育学部	学校教育課程	136 単位	有	毎学期 30 単位
医学部	医学科	共通教育科目 28 単位 専門教育科目 5092 時間	有	なし
	看護学科	126 単位	有	なし
工学部	機械・システム 工学科	124 単位	有	毎学期専門教育科目 1～2年次生 22 単位 3年次生 28 単位
	電気電子情報 工学科	124 単位	有	毎学期専門教育科目 1～2年次生 22 単位 3年次生 28 単位
	建築・都市環境 工学科	124 単位	有	毎学期専門教育科目 1～2年次生 22 単位 3年次生 28 単位
	物質・生命化学 科	124 単位	有	毎学期専門教育科目 1～2年次生 22 単位 3年次生 28 単位
	応用物理学科	124 単位	有	毎学期専門教育科目 1～2年次生 22 単位 3年次生 28 単位

国際地域学部	国際地域学科	124 単位	有	毎学期 1 年次生 22 単位 2～4 年次生 24 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：国際地域学部履修手引（新入生に配付）		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：「学生の学習状況に係る参考情報」 ・学生の進路状況 https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2018 卒業生進路状況.pdf ・教員免許状取得状況 https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2018 教員免許状取得状況.pdf ・医師・看護師・保健師・助産師国家試験合格状況 https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2018 国家試験合格状況.pdf		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：「学習環境に関する情報」 （所在地、主な交通手段） https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/data/access/ （キャンパス概要） https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/data/campus/ （課外活動施設の概要） https://www.u-fukui.ac.jp/cont_life/ （課外活動の状況：文京キャンパス） https://www.u-fukui.ac.jp/cont_life/circle/bunkyo/ （課外活動の状況：松岡キャンパス） https://www.u-fukui.ac.jp/cont_life/circle/matsuoka/ （休息が取れる環境） https://www.u-fukui.ac.jp/wp/wp-content/uploads/kyusoku.pdf

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
全学部	全学科	535,800円	282,000円	-円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>【大学独自奨学金】 日本学生支援機構の奨学金の他、福井大学独自の給付奨学金制度を設けている。</p> <p>1. 福井大学基金予約型奨学金 福井大学への進学を強く希望している受験生に対し、入学後の修学に必要な経済的支援を行うことを目的とした奨学金で、一人30万円の給付(毎年度10名まで)</p> <p>2. 福井大学学生修学支援奨学金 学部学生及び大学院生の授業料免除申請者(外国人留学生除く)のうち、審査の結果半額免除となった者の中から、選考により一時修学支援金として、一人10万円の給付(前期・後期合わせて35名まで)</p> <p>3. 福井大学生協奨学金 福井大学生協生活協同組合からの寄附による奨学金制度であり、学部学生の授業料免除申請者(外国人留学生除く)のうち、審査の結果半額免除となった者の中から、選考により一時学資支援金として、10万円の給付(前期・後期合わせて10名まで)</p> <p>【入学料・授業料免除】</p> <p>1. 1) 学部または大学院に入学する者で、学資負担者が死亡した場合、本人又は学資負担者が風水害等の災害を受けた場合等の特別な事情により入学料の納入が著しく困難であると認められる場合、入学料の全額又は半額を免除 2) 大学院に入学する者で、経済的理由により納入期限までに入学料の納入が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合、入学料の全額又は半額を免除</p> <p>2. 1) 経済的理由によって納入期限までに授業料の納入が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合、半期授業料の全額または半額を免除 2) 学資負担者が死亡した場合、本人又は学資負担者が風水害等の災害を受けた場合等の特別な事情により授業料の納付が困難であると認められる場合、半期授業料の全額又は半額を免除</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>本学では、以下のような就職支援の取組をとおして、大学通信調査「全国大学実就職率ランキング2018」において、複数学部を有する国立大学(卒業生1,000人以上)において11年連続1位を獲得している。また、就職先企業在籍3年以内の離職率が9.1%と全国平均の31.9%を大きく下回っており、ミスマッチが少なく、労働条件のよい優良企業に就職できていることの現れであり、単に就職率が高いだけでなく、その質の高さも担保されている。</p> <p>1. 充実した支援体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部の就職担当教員とキャリア支援課のキャリアカウンセラーが連携して内定まで徹底サポート ・本学独自のキャリアサポートシステムの運用により、学生は就職ガイダンスや各

- 種イベントの情報をメールで取得可能
- ・東京都内に就職活動の拠点サテライトキャンパスを設置
- 2. 徹底したキャリア形成
 - ・キャリアセンターと学部が連携し、共通教育科目、学部専門教育科目等を通して、地域と密着した人間力育成、日々進歩変化する医療現場への適応能力育成、夢をかたちにする技術者育成を推進
- 3. きめ細かな就職支援活動
 - ・エントリーシート作成、面接対策、内定者による体験報告等、充実した就職ガイダンスの開講
 - ・OB・OG との業界企業研究会・個別企業説明会の通年開催
 - ・大規模な学内合同企業説明会の開催等

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

本学では、以下のような取組をとおして、学生の心身の健康等に係る支援を行っている。

1. 身体の健康に係る支援

保健管理センターでは、健康診断、健康相談、休養場所の提供及び診療機関への紹介等の他、以下の啓発・予防活動を実施している。

- ・健康セミナー及びAED救命救急講習会等の開催
- ・インフルエンザ、麻疹、風疹、ノロウイルス等、伝染病予防及び環境衛生指導
- ・熱中症予防・禁煙指導等、学生メール配信やホームページ掲載等による健康管理情報提供

2. 心の健康に係る支援

学生総合相談室と保健管理センターとで連携を密にしてメンタルヘルス支援に対応し、学業、将来、性格及び人間関係等、あらゆる悩みについて相談に応じる他、以下の活動を実施している。

- ・入学時ガイダンスでの相談部署紹介とリーフレット配付による広報
- ・入学式終了後の保護者対象修学支援アドバイスを実施し保護者への啓発と連携強化
- ・メンタルヘルスアンケート及び健康診断問診項目から心の悩みを抱えている学生と早期に繋がり、精神科医師やカウンセラーとの面談を実施する予防的取組み
- ・留学生オリエンテーションでの広報及び英語対応カウンセリング実施での留学生の不調をサポート
- ・ピアサポート活動等による学生の居場所づくり
- ・FD・SD研修会実施による教職員への啓発と連携強化
- ・学生相談力量アップ研修会実施による教職員の学生対応能力強化

3. 障がいのある学生に係る支援

障がいのある学生及び教職員のための相談室において、様々な個性や特徴をもったすべての学生及び教職員がお互いを認め学び合う、支え合う環境や関係づくりを目指し、以下の活動を実施している。

- ・修学や大学生活上での配慮についての相談対応
- ・修学面における学生対応について、保護者の方や教職員の方へのコンサルテーション
- ・関係部局や教職員の方々との連携・協働による全学的な学生支援体制の構築
- ・全学及び部局へのFD・SD研修会等を通しての広報・啓発活動
- ・障がいのある学生をサポートする学生の養成・派遣
- ・他機関・他大学・地域等との連携・ネットワーク形成

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

「福井大学基礎資料」

https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/public/pub/material/

「福井大学の特色ある取組」

https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/public/pub/distinctive/

「教育情報の公開」

https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/disclosure/obligation/